

Ten・ten 2019 in 横浜赤レンガ倉庫

両極の書

漢字・仮名

主催 Ten・ten プロジェクト
後援 毎日新聞社／神奈川新聞社
代表 石坂雅彦／石井抱旦／生駒蘭嵩（相談役）

展覧会
2019年6月3日・月—9日・日
11—18時（初日のみ13時—／最終日のみ—17時）
横浜赤レンガ倉庫 1号館2階
神奈川県横浜市中区新港1-1 231.0001 045.211.1515
入場無料
陳列 有限会社美術表装岡忠 ほか
記録 有限会社美術表装岡忠（静止画）／坂巻裕一（動画）

関連企画
シンポジウム 6月8日・土 15—16時 笠嶋忠幸氏 | 出光美術館学芸課長
レセプション 6月8日・土 17時半—18時半
ワークショップ 毎日 13時—
ギャラリートーク 毎日 14時—

図録
2019年6月3日発行 400部
打ち／撮り 有限会社美術表装岡忠／株式会社東洋額装／有限会社香葉堂／
藤和額装株式会社 ほか
組み 坂巻裕一
刷り 株式会社グラフィック（A4 上質紙90kg）
折り／締め 株式会社ナカノ
綴じ 有限会社中村印刷所 

事務局／問い合わせ 石井抱旦
神奈川県茅ヶ崎市中海岸2-10-13 253.0055 0467.86.2615

題名

寸法 (cm)
使用材
制作年

コメント

氏名

生年
所属
師
住所
連絡先

略歴

書作の根底を見直す

菅原教夫

読売新聞編集委員／美術評論家

この展覧会では、参加作家たちが自らの書作の根底を見直そうとしているように思われる。伝統書と前衛書を隣り合うように並べて刺激し合うとか、一人当たりの展示スペースが広いといった開催理由は外的なもので、作家たちのなかから本展構想がわき出てきた背景には、いまの時点で書作することの意味を確かめたいとの内的な欲求があると想像する◆ 伝統書の作家たちの顔ぶれを見ると、すでに日展で二回の特選を得て書家としての立場を築いた人や、それに近い力量の持ち主がそろった。しかし、彼らはその立場に安住するのではなく、好きな書を十分に生ききるにはどうすればいいのかと、その手掛かりを求めているように見える◆たとえば本展の構想にかかわった一人、石坂雅彦の場合は金文による作品で二度の日展特選を受賞したが、その後はあえて金文を離れ、時代の下った石刻などの古代文字の探求に入った。侯馬盟書にしばらく取り組んだのに続き、このところ鄧石如の篆書の所以たる祀三公山碑に打ち込んでいるのがそれである。ここからは篆書書法の根底をつかむためにその悠久の歴史に分け入りたいとの思いが伝わってくる。あるいは関西から意欲的に参加した尾西正成は王羲之をベースに墨蹟を加味した行草で知られる書き手だが、近年は書線を激しく躍動させる表現主義の度合いを強めている。この振り子はいったんとことんまで振りきってみなければなるまい。でなければ古典に備わる抑制の美学の本当のところも血肉化できないであろうから◆このような個々の作家の真摯な試行は実にうれしいものである。青山杉雨と現代作家の営みを話し合っていたころ、抜群の批評眼の持ち主であった巨匠はよくこういう言い方で他人の作品を評した。「菅原君、しかしああいう作品をかいていて本人は満足できるものだろうか」。今日、何とも挨拶に困る作品に出合うたび、僕の頭のなかでこの言葉がよみがえる。もちろん作品を認めていないことの遠回しな言い方で、もしそうした作品に本人が満足しているのなら何をかいわんやというわけだ◆本展の作家たちは自分の書作はこれで満足かという根底的な問いを自分に突き付けているように映る。書作に向かう姿勢、そして今日の書のあり方を検証しながら、一層豊かな自分の書を確認したいからである。



赤平泰処

1946

毎日書道会／東方書道院／貞香会

中村素堂

東京都北区滝野川3.48.1.616 114.0023

03.3917.3409

青森県弘前市生まれ、中村素堂に師事、大正大学卒業

毎日書道展、東方書道展、貞香会展を中心に作品発表

海外展多数出品。篆隸書の論考、著書等あり

フランス国立ギメ東洋美術館、佐久市立近代美術館等に作品收藏

現在、毎日書道会幹事、東方書道院副理事長、貞香会会長、大正大学名誉教授

六言二句

居身百尺楼上、放眼萬卷書中（陳牧）

76×263

画仙紙

2019

自らの造形感覚と線へのこだわりの中で、勁い意志の表現に努めている。
動から静へもっと深いものを思考していきたい。





生駒 蘭 嵩

1959 毎日書道展 審査会員／東方書道院 同人／朝聞書会 理事／
神奈川県立茅ヶ崎高等学校 芸術科 書道教諭
野口白汀
神奈川県鎌倉市西御門 1.12.10 248.0004
Nishimikado1192@lagoon.ocn.ne.jp

2000 第32回日展入選
2004 第56回毎日書道展 会員賞
2008 神奈川書家三十人展に初出品（以後現在まで11年連続出品）
第40回日展入選
2009 スピリッツ 漫画「とめはねっ! 鈴里高校書道部」（第6巻）に
30人展の作品が掲載される
2012 文部科学大臣優秀教員表彰
2016 「TOKYO書2016 公募団体の今」東京都美術館に出品
2017 毎日書道展第70回記念毎日現代書巡回展・
「今をえがく書かながわ」展の事務局長、改組 新第4回日展入選

李商隱詩

175×49×6枚
朱染めの紙
2019

明末清初の書法と私の感性を融合させてみた。
朱と金と黒の色彩対比も鑑賞していただきたい。





石坂雅彦

1945

日展／読売書法会／謙慎書道会／猗園文会／三鼎書道会
西川寧

神奈川県茅ヶ崎市東海岸南3.12.8 253.0054

0467.85.7307 shokankyo@jcom.home.ne.jp

1972 第34回謙慎展＜推薦顧問賞＞

1973 第5回日展＜初入選＞

1978 日本書道家友好訪中団団員として派遣される

1983 「1970代陝西省出土殷周青銅器」『實踐國文學』第24号

1983・94 第45・56回謙慎展＜梅花賞＞

1984 「明治時代の書教育の実状」『實踐國文學』第26号

1987 「春洞先生の大幀」『書品』第289号

1994 「筆圧と速度」『墨』（書の技法指南）

2003・08 第20・25回読売書法展＜準大賞＞

2010・14 第42回・改組新第1回日展＜特選＞

江亭 一杜甫一

162×69×4点

玉版二層紙／墨

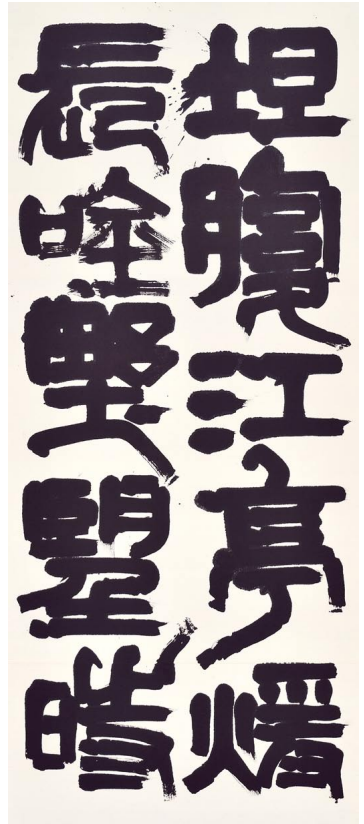
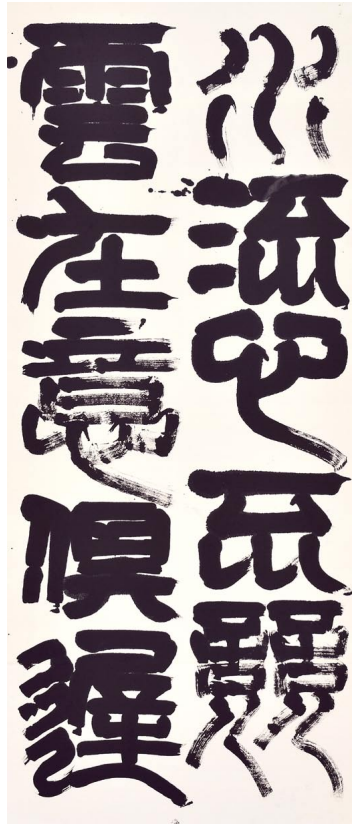
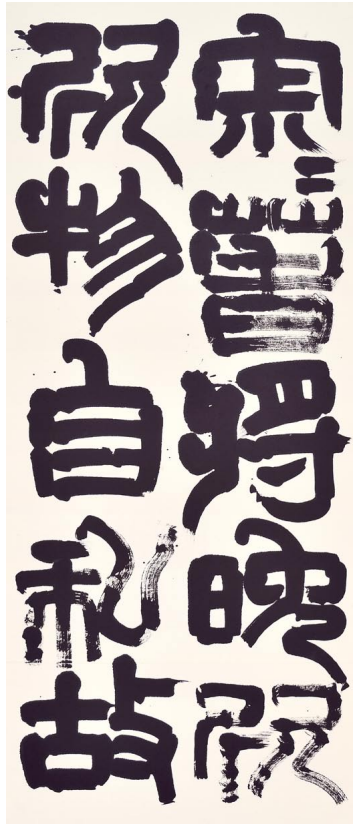
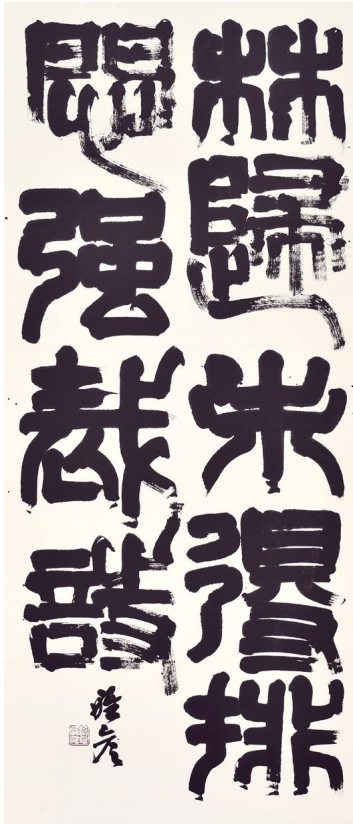
2019

作品であるからには自己表現。

古代文字篆書には現代人を惹き付ける造形美がある。

その一点一画の線に輝き・響き・趣き等を織り込む。

そこに己の姿が現れて来る。





岩井秀樹

1955

謙慎書道会

東山一郎

東京都立川市

seisin-syodo.jp iwai-hideki@seisin-syodo.jp

2000 父子三人展／東京銀座画廊美術館

2013 第30回読売書法展準大賞

2015 聖徳大学言語文化研究所主催講演

「かなの美への誘い」ー古筆を楽しむためにー

岩井秀樹かな書展／銀座画廊美術館

2017 第34回読売書法展準大賞、改組新第四回日展特選

2018 第35回読売書法展ギャラリートーク

改組新第五回日展無鑑査

現在 読売書法会常任理事、謙慎書道会常任理事、日展会友、聖徳大学教授、
書道東龍文会会長

四季のうた 二曲一双

175×170×2点

扇面具引き料紙16枚／油煙墨／松煙墨

2019

依屋宗達の「扇面散し屏風」をイメージした作品

右隻には藤原俊成の四季のうたと西行の四季のうた

左隻には西行の四季のうたと藤原定家の四季のうたを題材とし

三人の関わりをイメージしながら書作した





淒朗

40×80

金文を素材に創作した。

本来同じ太さである金文を筆で表現することの意味を考え、カスレの個所を限定し全体に線の角度が同じにならないように気を付けた。

盤遊

180×91

大字行書に挑戦した。

羊毛の筆を使い墨量で躍動感、迫力を求めた。

2019



上籠鈍牛

1985

寄鶴文社

高木聖雨

東京都練馬区貫井3.46.32 176.0021

090.6775.8619

2003 大1 大東文化大学書道学科に入学
現在の師 高木聖雨氏に師事

2006 大4 全日本高校大学書道展において「大賞」受賞

2008 23歳 第40回日展において「初入選」その年最年少、翌年連続「入選」

2014 29歳 第76回謙慎書道展において「西川賞」受賞
謙慎書道会 常任理事に昇格

2016 31歳 読売書法展において「読売新聞社賞」受賞
読売書法会 理事に昇格

2017 32歳 銀座書道教室開校





植松龍祥

1964

謙愼書道会

殿村藍田／植松弘祥

山形県

090.8423.6046

1994 謙愼書道会展／東京都美術館（春興賞・1995年梅花賞）

1995 読売書法展／東京流通センター（読売新聞社賞・2002年2回目）

2005 日展／東京都美術館（特選・2009年2回目）

2016 改組新第3回日展審査員

現在 （公社）日展会員

読売書法会常任理事

謙愼書道会常任理事

日本書道コネスコ登録推進協議会

賛同団体署名運動地域代表委員山形県担当

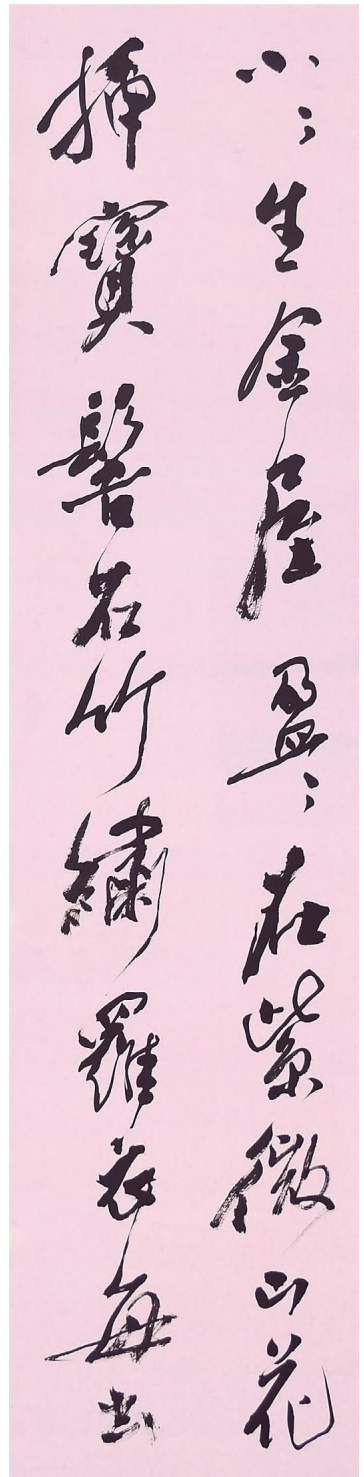
李太白詩二首

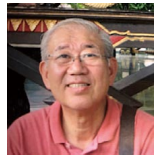
135×32×4点

2019

壁面の広さがあったので、あまりやらない対聯に挑戦してみました。

楽しみながら、苦しみながら書きました。





五つの漢字

120×120
中国紙／油煙墨
2019

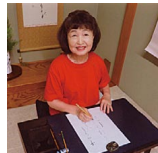
私はいつも大体「文字」を書いてきた。
時折、文字じゃない姿の作品も書いたけど、今回は少し拘って漢字を書いた。
思いを線に託すのは本当に難しい。

江草幽研

1952
毎日書道会／奎星会／飛雲会
寺部霞江／宇野雪村／菅野清峯
兵庫県西宮市すみれ台3.17 651.1432
078.903.6362／090.1679.7958

1973 「第25回毎日書道展」(以後毎回出品)
「玄美探展」(以後毎回出品)
1974 「第23回奎星展」(以後毎回出品)
1982 「YACG20回記念展」東京
1994 第46回毎日書道展「会員賞」受賞 審査会員となる
2010 「'10奎星50人の書展」東京
「全北ビエンナーレ」韓国
2011 「TEN・TEN」(洋協ホール・東京) 2012横浜／2014札幌／
2015鎌倉／2016横浜／2017東京／2018東京
2013 「新春の書展」(銀座画廊・東京)





富士山

天地の分かれし時ゆ 神さびて高く貴き 駿河なる富士の高嶺を
天の原振り放け見れば 渡る日の影も隠らひ 照る月の光も見えず
白雲もい行きはばかり 時じくぞ雪は降りける 語り継ぎ言ひ継ぎ行かむ
富士の高嶺は
田子の浦ゆ打ち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける
山部赤人

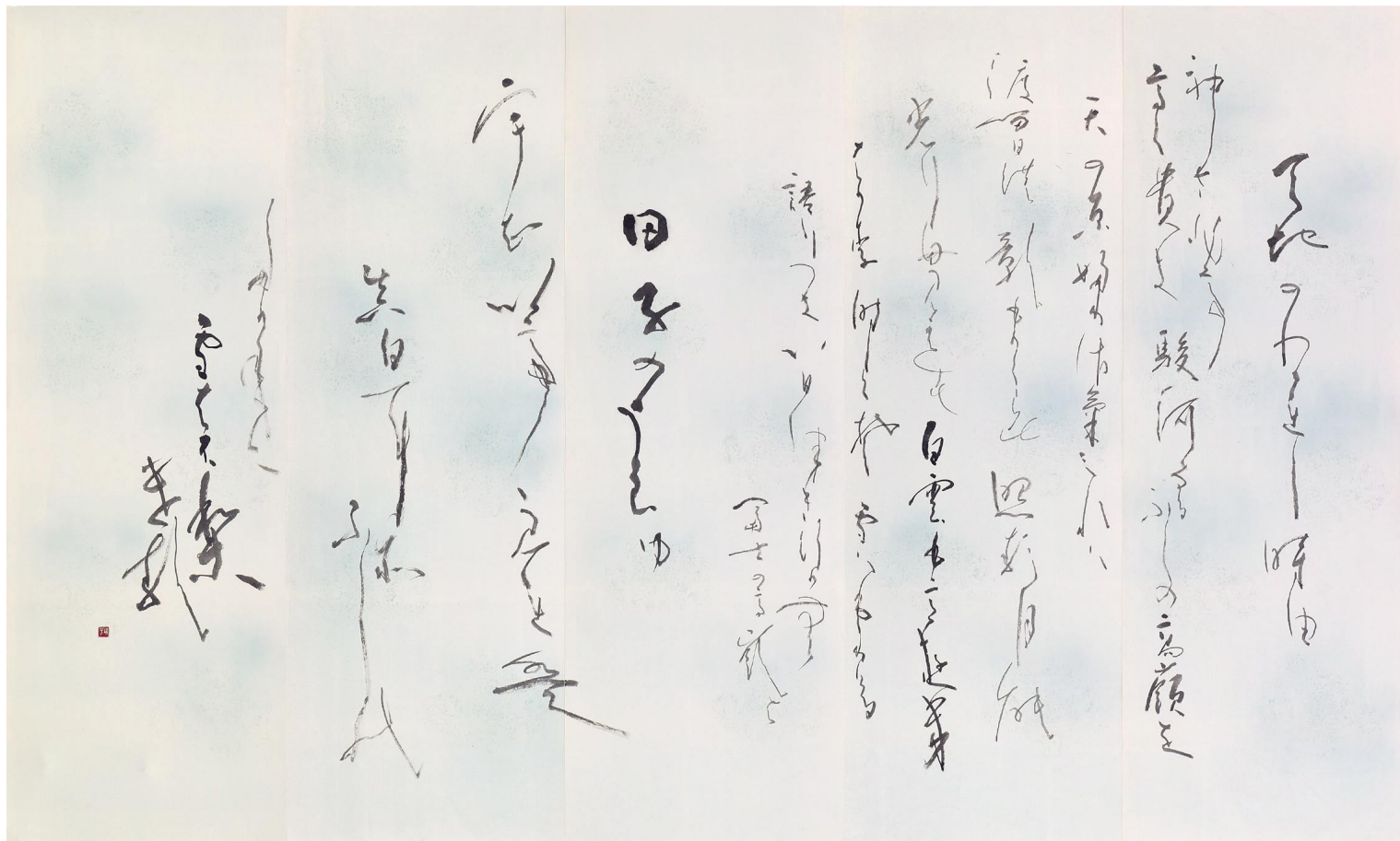
180×300
料紙（染めに型押し）
2019

天地の分かれし時から現代まで
芸術のモチーフ「富士山」
歴史の重みを感じつつ
真青な海 真白な霊峰富士を
表現しようと、力いっぱいぶつかってみました

大林靖芳

1945
日本書道美術院
飯島敬芳
横浜市港北区下田町3.2.35 223.0064
045.0064.9981（兼フアクシミリ）

2000 日書展 春敬賞 受賞
2005 毎日賞 会員賞 受賞
2006・2009 橘会書作展・銀座ギャラリー 滝山
2007 秀華展 俊英作家五人展・東急百貨店本店
2008 現代日本の書代表作家台北展・台北
2010・2013 あづさ書芸社選抜展・銀座画廊美術館
2017 日書美シンガポール展・シンガポール
2019 あづさ書芸社選抜展・鳩居堂





越智麗川

1955 現日会／賀墨会

城所湖舟

神奈川県横浜市港南区日野8.13.20 234.0051

045.843.9431 (兼ファクシミリ)

nb-ochi@mbp.nifty.com

1978 横浜国立大学教育学部書道専攻卒業

1985～「現日書展」「現日春季書展」へ出品

1987～「賀墨書展」(故 城所湖舟社中展)へ出品

1991～「グループ墨花」を発足。以降27回グループ展を開催

2008～「神奈川代表書家展」出品／桜木町ゴールデンギャラリー

2010～「書TEN」を発足。以降9回グループ展 開催

2011 書道ジャーナル掲載「いろは帖」の手本揮毫

2013 TOKYO書2013 公募団体の今 出品／東京都美術館

2018 モナコ日本芸術祭出品／国立レニエ3世オーデトリウム／モナコ

「日本美術・和魂洋才」出品／リンダ・ファレル・ギャルリー／パリ

無Ⅰ

無Ⅱ

70×135

70×133

画仙紙／墨

2019

何も存在しない「無」から、新しいものを模索する。

縦横交差と点は、定法と斬新のせめぎあいを繰り返し、
私の未知の世界への道標となる。





琥珀の光

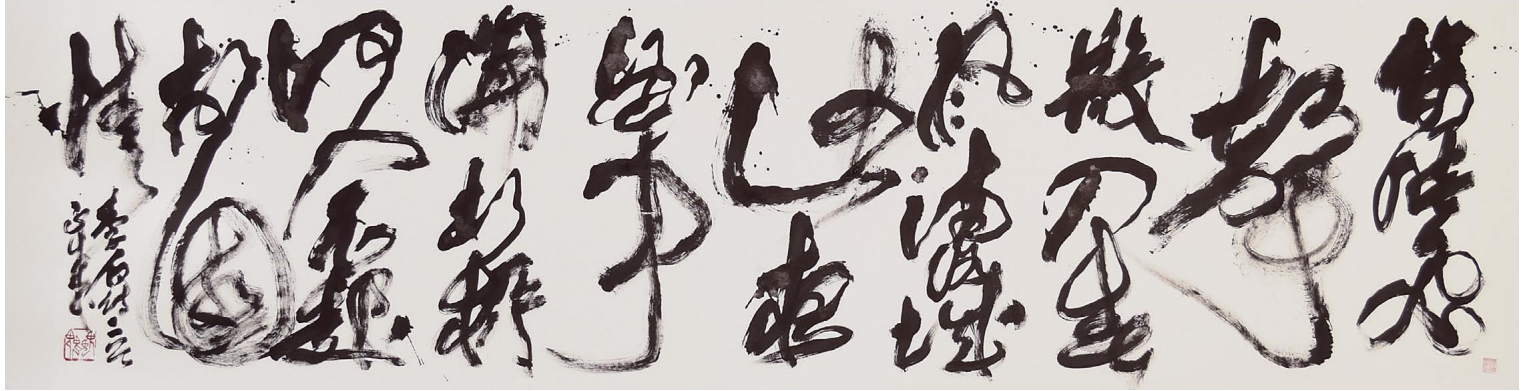
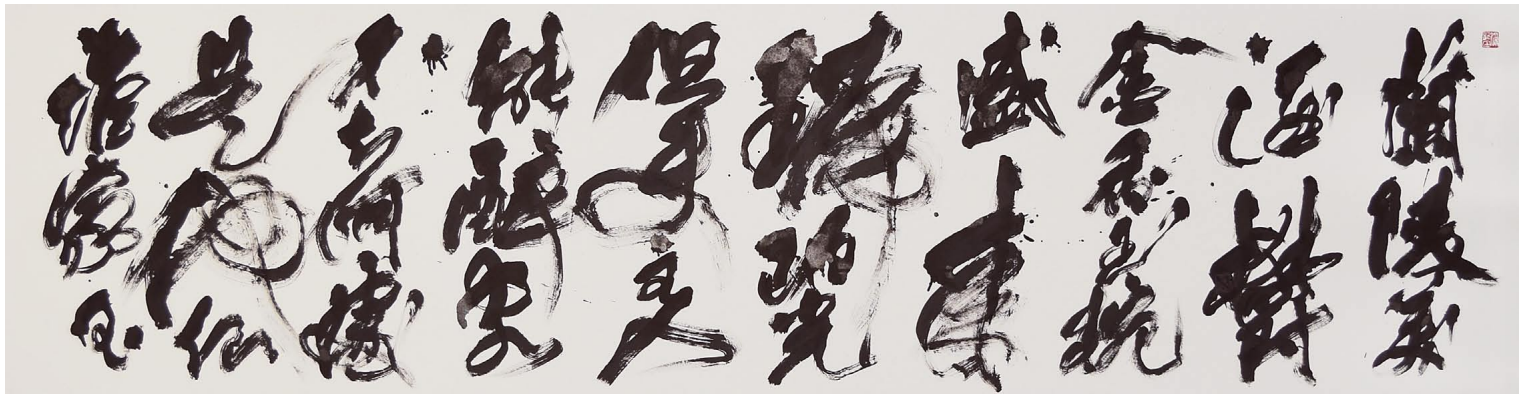
70×27.2×2点
画仙紙／墨
2019

出来るだけしっかりと責任をもって線を引くことは日頃から心掛けている。
確かに真面な造形で迷わず書くことを約束事として、
書き進めるうちに
明代書人の巻物にみえる鬼気迫る何かが続かないかと希った凡作である。

尾西正成

1970
興朋会
吉川蕉仙
京都府
masanari0925@gmail.com

1996 京都教育大学大学院 教育学研究科美術教育専攻 修士課程修了
2008 第25回 読売書法展 読売大賞受賞
2012 日展 京都新聞賞受賞「波興」
2013 第45回日展 特選受賞「風起こる」
2014 論文 白隠慧鶴「面壁達磨」と文字絵の周辺 書学書道史学会
2015 改組新第2回日展 特選受賞「鷹を放つ」
現在 京都橘大学教授・日展準会員・読売書法会常任理事・
日本書芸院常務理事ほか





川西美智

1973

水穂会

池田桂鳳

京都市中京区尾張町202.202 604.0934

075.252.4120 龍枝堂内

1973 三重県尾鷲市に生まれる

1992 三重県立松坂高等学校卒業

1996 東京学芸大学教育学部（書道）卒業

龍枝堂株式会社入社

2006 日展初入選（入選9回）

2013 読売新聞社賞受賞

現在 尾鷲市観光大使

読売書法会 理事

水穂会 総務

書道つくし会 主宰

尾鷲節

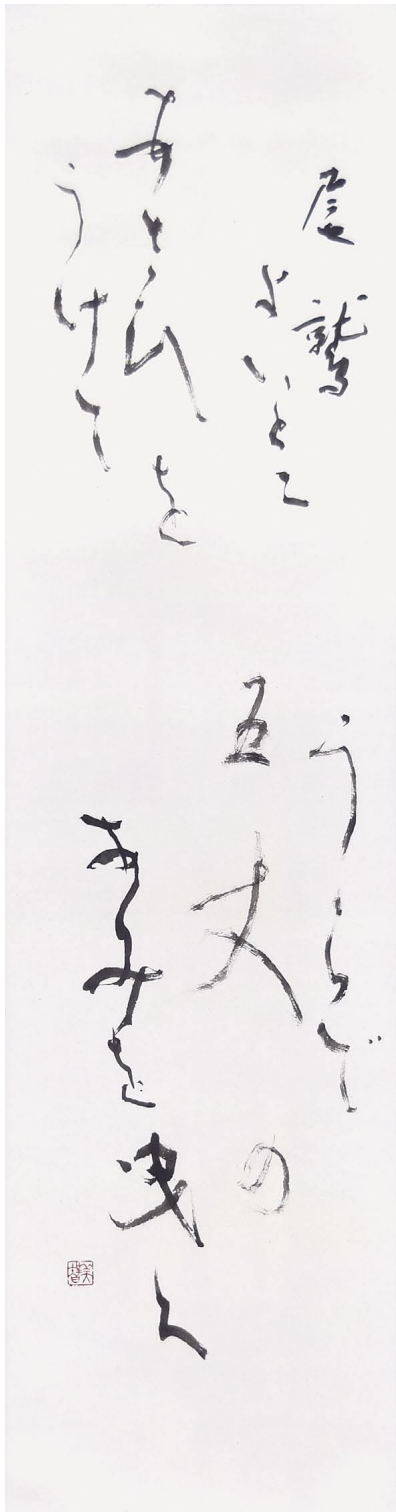
135×35

紙／墨

2019

郷里、三重県尾鷲氏の民謡「尾鷲節」の一節を書きました。

雄大な熊野灘、朝日の明るさをのびのびと表現したいと思いました。





齊藤紫香

1958

かな書道 藍笥会

今関脩竹／清水透石

神奈川県伊勢原市高森

090.9344.7052

1977 大東文化大学入学後、今関脩竹に師事

1981 大東文化大学卒業

2000 光村図書出版高校書道教科書編集委員(2004まで)

かな書道 藍笥会副会長就任

2002 大東文化大学非常勤講師となる

2003 日展会友

2004 神奈川30人展、この年より出品

2011 「教えて! 先生くらしの書」(芸術新聞社)著

2014 読売書法会常任理事

左千夫45歳の歌 四首

68×70×4枚

甲州手すき和紙／和墨(古梅園)／筆(玉川堂)／古端溪硯

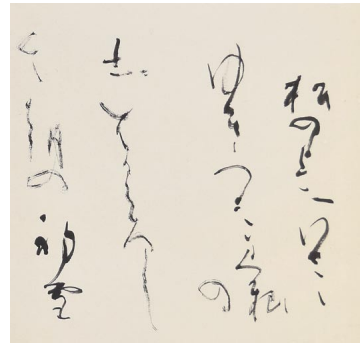
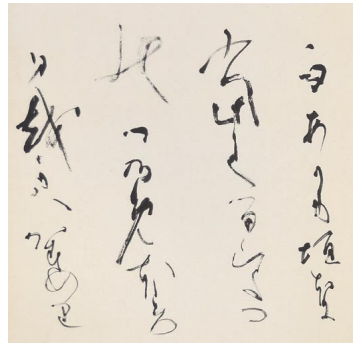
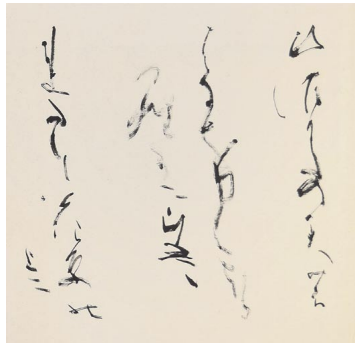
2019

撰文にはいつもきっかけがある。

明治42年は恩師今関脩竹の誕生の年。

同じ千葉県出身の伊藤左千夫はこの年45歳である。

心の叫びを盛んに歌に託した時でもある。





源実朝の歌一首

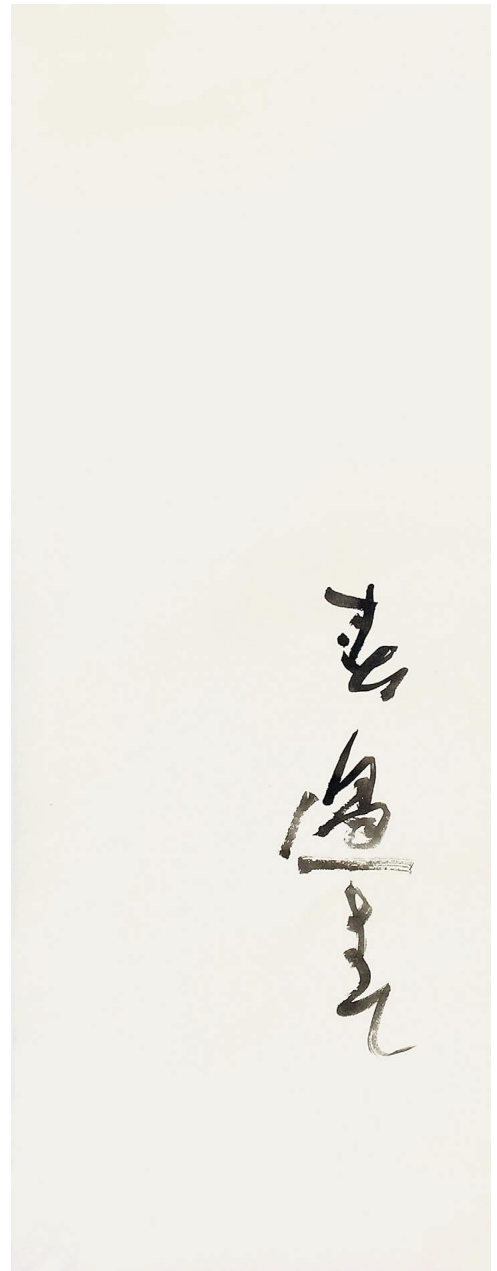
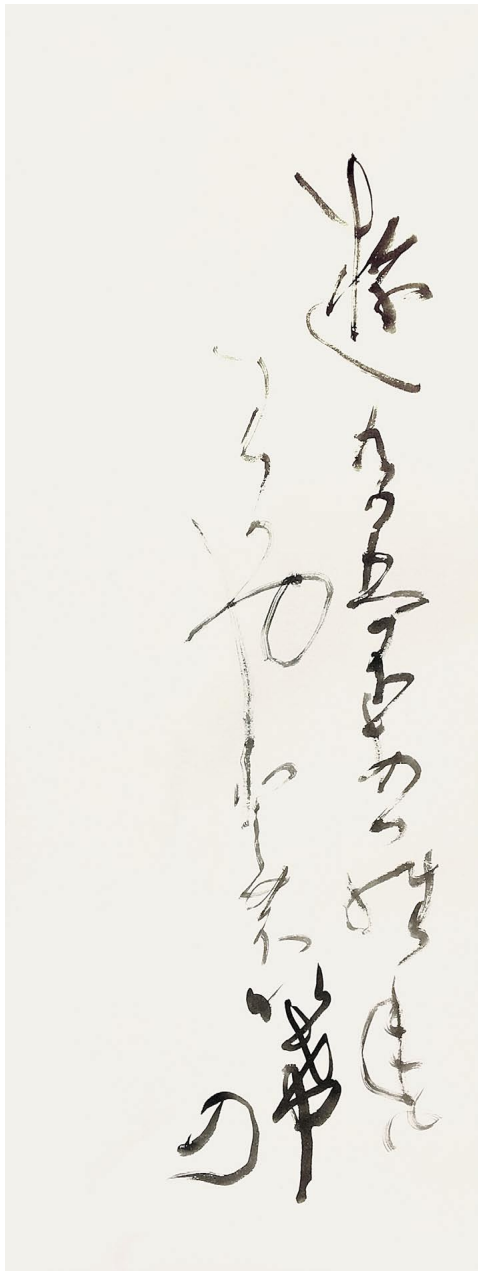
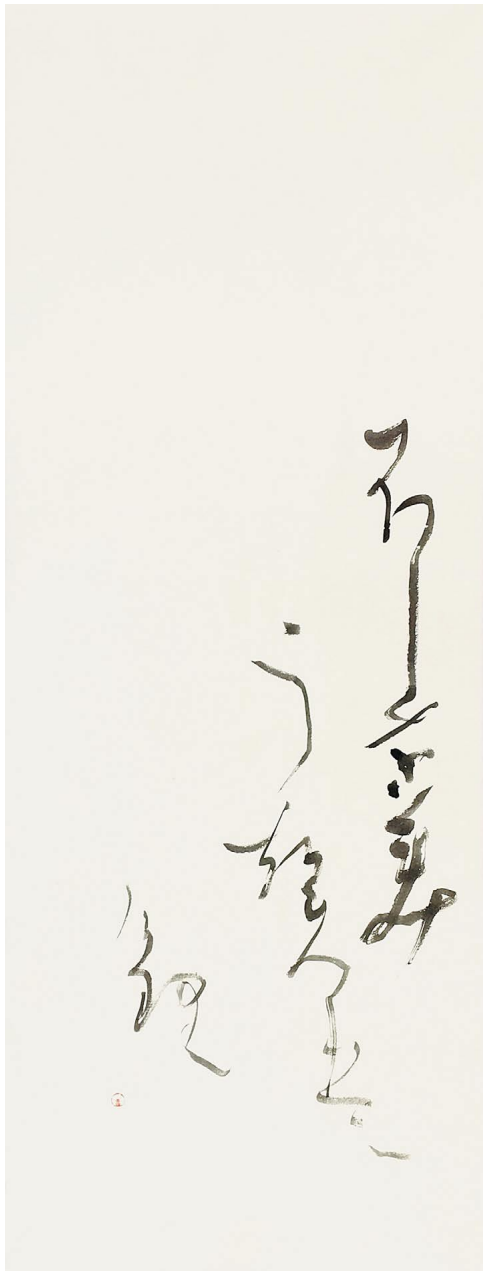
143×54×3枚
南松園製千寿墨／中国製羊毛筆／中国製楮紙
2019

師からの教会で、「漢字・仮名の書学両立」を目指す私にとっては、
作品への体現方法が最大の課題です。
実朝の歌に乗せて、その幾許かを表現できれば幸いです。

棧敷東煌

1975
日月書道会
棧敷東石
横浜市神奈川区片倉5.9.12 221.0865
sajikitochkoh@yahoo.co.jp

1999 大東文化大学中国文学科卒
2003 勤務先を退職、書道教室を開業
2006 毎日書道展若手作家墨輪会参画
2008 神奈川県代表作家展併催「次代を担う新進作家展」出品
2012 鶴見大学生涯学習かな講座開講
2014 毎日書道展にて会員昇格
2015 目黒のレストランにて初個展
神奈川大学書道部講師着任
2018 神奈川の書全てを魅せる百人展出品





杉山 曉雲

1948

謙慎／書象

上条信山

東京都杉並区阿佐谷北1-41-10 166.0001

03.3330.0307

日展会友

読売書法会理事

謙慎書道会常任理事

書象会副理事長

杉並区書道人協会理事

産経学園講師

婦人生活日黒学園講師

書道研究「鹿門書院」主講

打々發止

張猛龍碑陰

ちょうちょうはっし 200×70

ちょうもうりょうひん 110×110

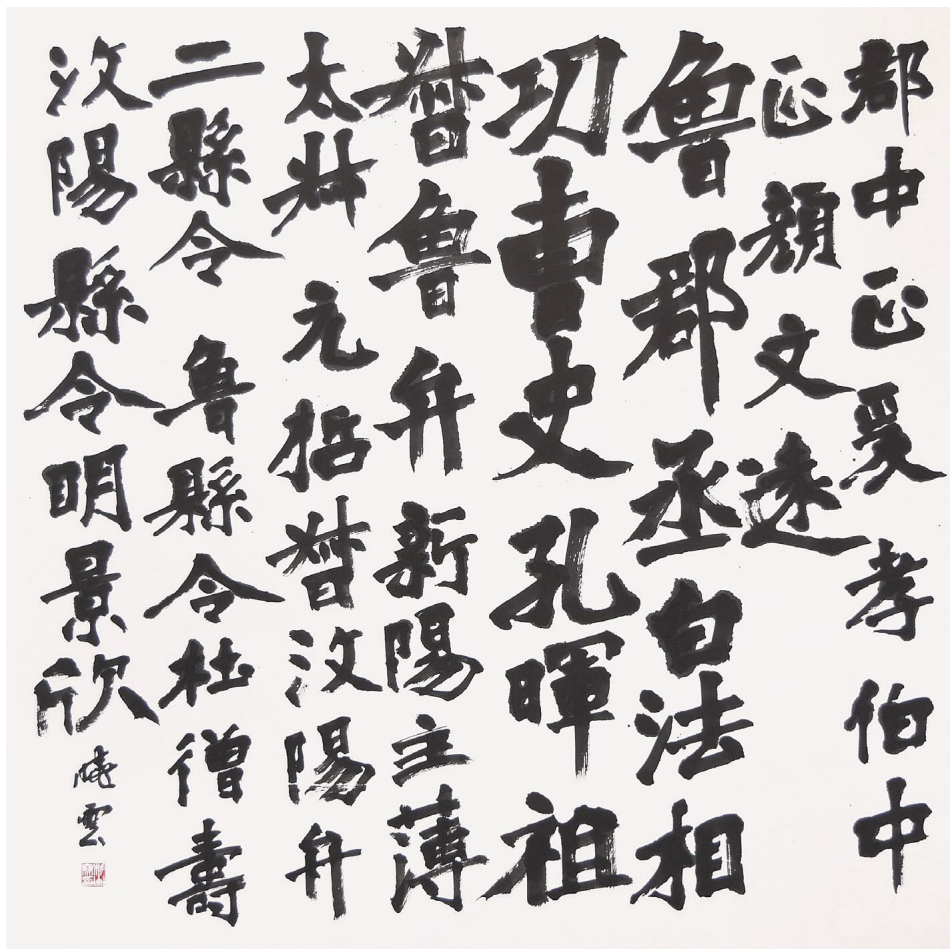
画仙紙

2019

多会派混在と伺い、少しヒネリを効かせた作品を企画しました。

何より互いに「打々發止」の会場風景を思い浮かべて、

楽しく書かせていただきました。





心閑手敏

80×230
画仙紙／墨
2019

書譜の一節「心閑手敏」を草書で書く。
原始草書に見られる草書本来の構造を踏まえて、
限られた空間の中でシンプルな造形と線のダイナミズムを表出することに努めた。

鈴木汪慶

1950
謙慎書道会常任理事
西川寧／鈴木汪亭
東京都北区豊島8.27.18.1312 114.0003
03.3927.0737

2000 ドイツ シュツットウガルト個展（4回）
2008 第70回謙慎書道展春興賞
2009 ドイツ芸術アカデミー（ベルリン）作品収蔵
2010 中国烏海書法芸術展
2011 第73回謙慎書道展春興賞
2013 第30回読売書法展読売奨励賞
新井光風と猗園文会選抜展
2015 第32回読売書法展読売俊英賞
2017 第34回読売書法展読売新聞社賞





杏花飛簾

53×280×2枚
冷金箋
2018

「書はリズムである」という金子嗣亭先生の言葉に触発され、
細かな技巧に拘らず全体感を大切に制作した。

種家杉晃

1974
創玄書道会
石飛博光
神奈川県横浜市
seishinshodo.com

2008 日展初入選（以降4回）
2009 毎日書道展 会員賞
2014 毎日書道展審査（以降3回）
2019 創玄展 21世紀賞





花鳥風月

70×100
唐紙／和墨／胎毛筆
2019

しっかりとした文字、構成はもちろんのようですが、
プラス、雰囲気のある、なにかを感じさせるものを目指しました。

原雲涯

1947
奎星会
藤原清洞
長崎県長崎市稲田町 1.27 850.0907
080.1734.2087
u-hara@ngs2.cncm.ne.jp

2001 毎日書道展前衛書部会員賞
1985 第1回社中展以後2年に1回で17回
年不詳 個展2回
2017 小学校記念碑揮毫
アニメや映画のタイトル文字など揮毫





断臂心眼

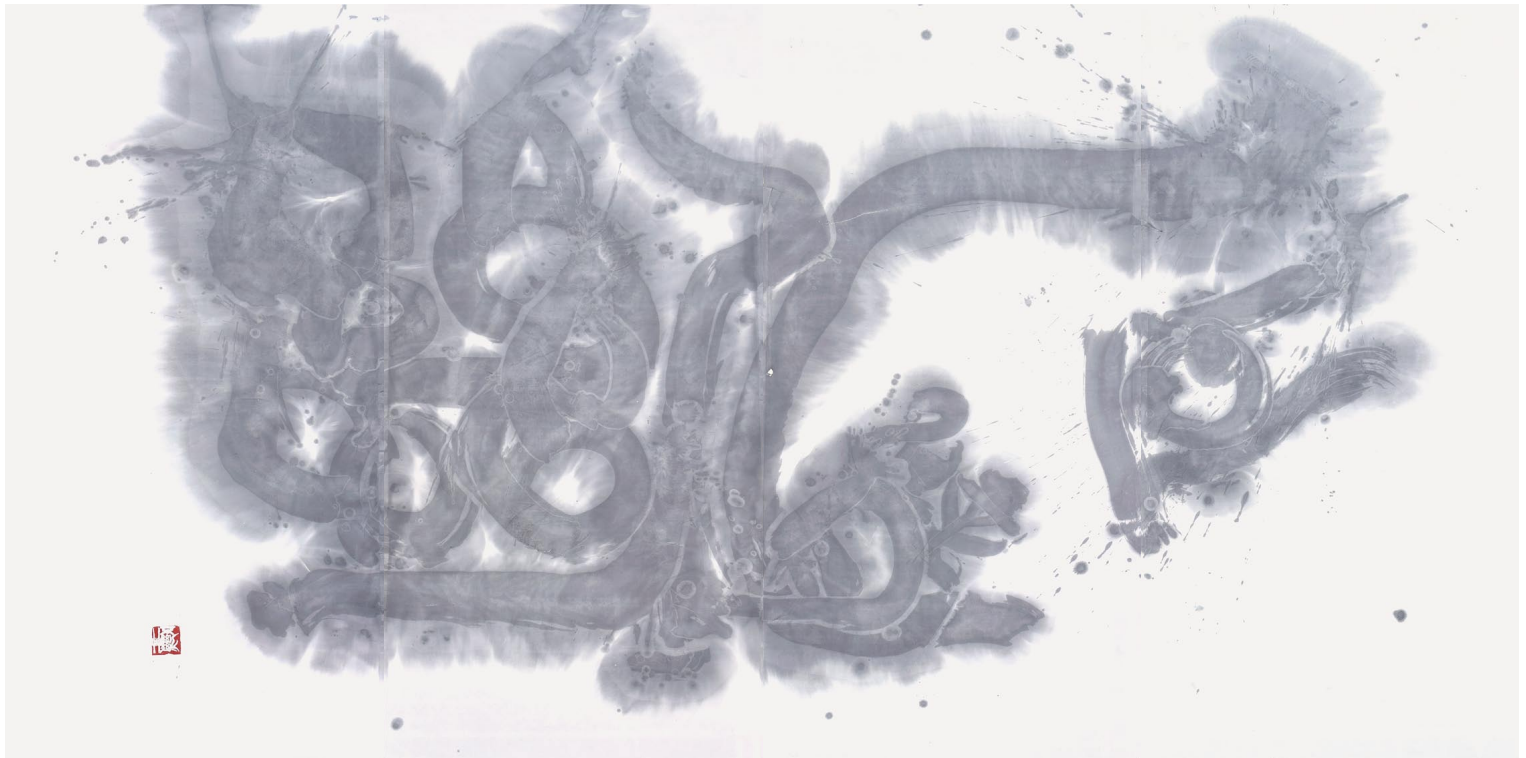
180×360
大画仙紙／青墨
2019

慧可断臂図。
石窟に座す達磨。
慧可の差し出す臂。
スパークする眼。
雪中断崖の空間に刻まれたドラマ。
この一瞬の光景を、古代文字で形象しました。
歩をとどめ観照し、目聴していただければ幸いです。

藤波 艸心

1944 毎日展／朝聞／東方／泉会
松井如流
川崎市宮前区宮崎69.4 216.0033
044.588.6576 fujinami@wj8.so-net.ne.jp

1964 毎日・東方・東京展〈現朝聞〉都美・女系文字をテーマに創作
1969 書のルネサンスを目指し泉会創設 活動のベースとする
1970 第1回泉会展開催・ゆふきや画廊以後50回展を迎える
藤波浩初個展 竹川画廊・
'85/3 艸心個展 文藝春秋画廊 '85/8 広島福屋
1980 ユーゴスラビア・リエカ国際ビエンナーレ入選 '98・アンデパンダン出品
'05 サロンドートンヌ入選
1985 「書と映像の出会い」レイモンド・ボヤット・艸心、パリ・東京・京都
ミュッヘン・ビールビエーン・ローザンヌ・セーヌ Bateau・Daphne
2014 艸心個展〈古事記形象〉竹川画廊
2015 8/6 艸心個展「記憶」その日ひろしま 広島福屋 '19 現在に至る





幕田 魁心

1947

無所属

安藤 攝石

千葉県君津市北子安 5.21.44 299.1161

090.4124.5847

2011 千葉大学非常勤講師

2013 第20回個展(東京銀座画廊美術館)

2014 第21回個展(ニューヨーク)

2014 ニューヨーク総領事館作品収蔵

2015 パリ・マドレーヌ寺院作品収蔵

2016 第25回個展(パリ日本文化会館)

2017 中尊寺作品2点収蔵

著書36冊(極めるシリーズ、創作への道等)

個展28回(鳩居堂、北京、ニューヨーク、パリ等)

2016 フランス社会功労奨励章 王冠付(金)勲章受賞

游藝

135×280

朱紙

2019

論語の一節を金文で朱紙に制作した。

筆は3本使用し、緩急のある運筆で動的に表現した。





韋應物詩二種・

秋夜寄丘二十二員外、聽江笛送陸侍

170×80×2点 三號兼毫筆／書芸呉竹／五星牌 二幅額装

悠遠・詩經小雅

170×80 一號兼毫筆／書芸呉竹／五星牌 大字二文字額装

2019

素材は二点とも北魏楷書。

表現の主眼として二点の共通点は、一本の線の存在感と、迫力と繊細さの同居。

その上で二幅はリズム感を、大字作品は諸要素の比率の研究を試みた。

松尾光晴

1972

謙慎書道会・猗園文会

新井光風

栃木県

chatoradaisuki2009@yahoo.co.jp

calligrapher-matsuo.com

ameblo.jp/taillight-challenge

2004 謙慎書道会展（謙慎顧問賞）

2009 謙慎書道会展（梅花賞）

2010 謙慎書道会展（西川賞）、日展（初入選以降6回）

2011 読売書法展（読売新聞社賞）

2015 「Tokyo 書 2015 公募団体の今」展／東京都美術館・東京

2016 「期待の精鋭たち一戦後70年をこえて」展／日本書道美術館・東京

2017 浅草橋「光雲堂」にて松尾書道教室開講／光雲堂3階・東京

2018 玄武書道展（2018 初出品）





水川 芳竹

1968 横浜生まれ

芳林書道院／一瀾書道会

水川 舟芳

海老名市東柏ヶ谷 6.13.1 243.0401

046.235.1695 houtiku.m@gmail.com

hourin-shodou.com

2000 日展 第31回日展入選

2007 第59回毎日展 会員賞

2008 国井誠海賞 受賞

2019 水川舟芳 水川芳竹親子展／セントラルミュージアム銀座・東京

述懐

述懐 魏徵

中原還逐鹿，投筆事戎軒。縱橫計不就，慷慨志猶存。

杖策謁天子，驅馬出關門。請纆繫南粵，憑軾下東藩。

鬱紆陟高岫，出沒望平原。古木鳴寒鳥，空山啼夜猿。

既傷千里目，還驚九逝魂。豈不憚艱險，深懷國士恩。

季布無二諾，侯嬴重一言。人生感意氣，功名誰復論。

180×300

画宣紙

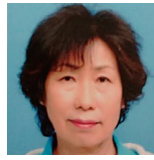
2019

題名を篆書で大書し、本文を行草で連綿を入れて書した。

このような形式の作品はあまりないと思う。

自分なりに新たな挑戦を試みた作。





富士

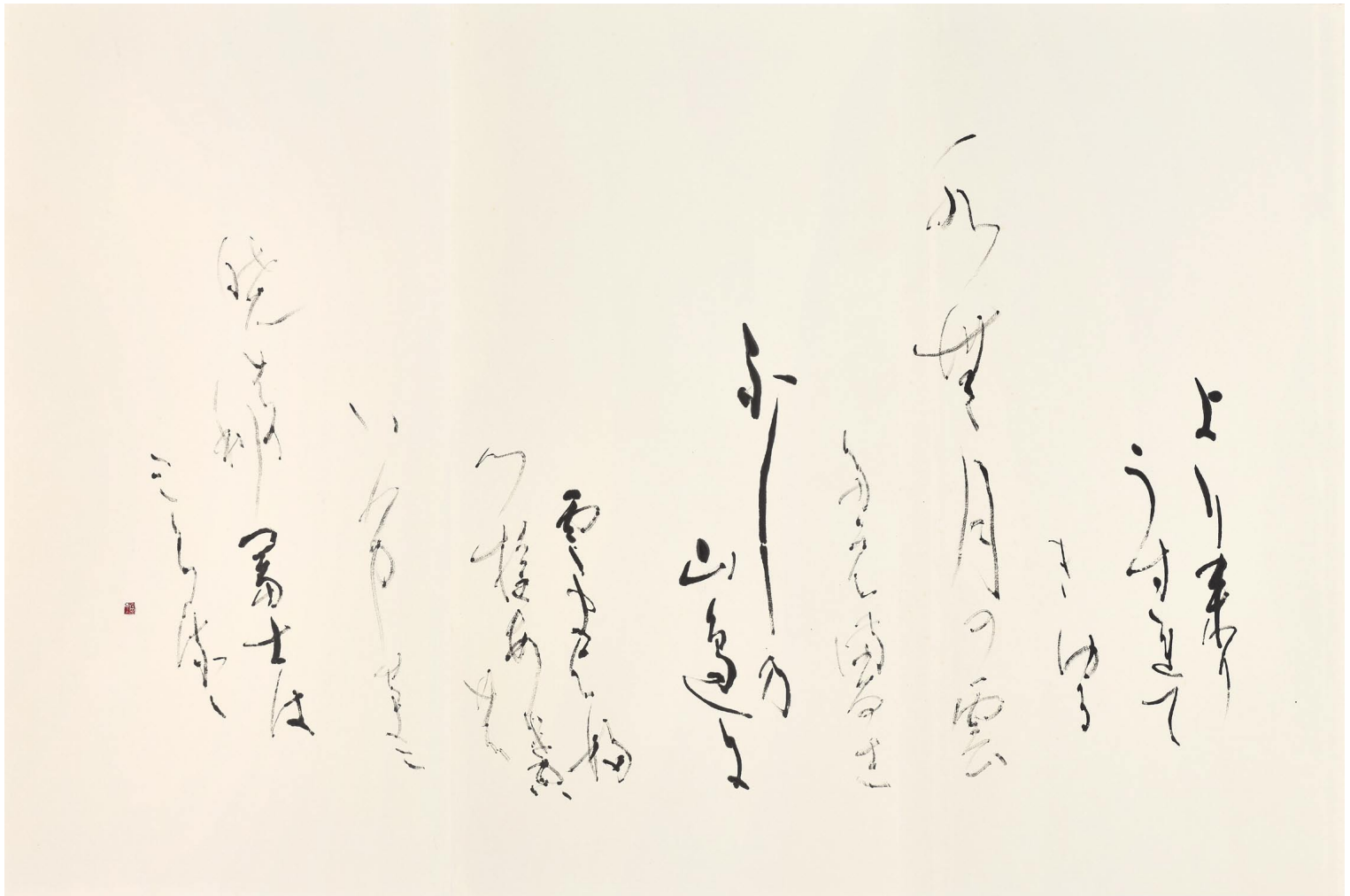
182×273
紅星牌 綿料単宣／青墨／羊毛筆
2019

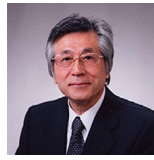
3月の旅で、出会った雲ひとつない、神々しい程の富士。
雄大な富士を中心とした景色を眺めるような構図を意図したちらし書きで、
スケール感を出したいと考えました。

森廣青寿

1953
日本書道美術院／光荘会
荒井青荘
神奈川県川崎市中原区木月祇園町11.15 211.0033

2005 毎日展 会友
神奈川県展準大賞
2008 日書展 準大賞
2010 毎日展 毎日賞
2012 毎日展 毎日賞 毎日展会員
第62回毎日訪中団 参加
2017 日書展 春敬賞
日本書道美術院シンガポール展
光荘会 副会長





吉澤大淳

1944

日展会員／謙慎書道会常任理事／読売書法会常任理事
成瀬映山
長野県

日展、読売書法展、謙慎書道会展、寄鶴文社展、長野県展、日本の書展、
海外展に出品。

随家豊儉

135×128 2000

（物事はすべて分相応に行うべきの意）
造形の美を追求し、強い意力、緊張感、重量感などに意をおいた。

敦煌

172×64 2000

敦煌に見たエネルギーの強さ、
無限の大きさを追求し心の核にある形を紙面に定着させることを主眼にした。



Ten・ten 2019 in 横浜赤レンガ倉庫

両極の書

前衛

主催 Ten・ten プロジェクト
後援 毎日新聞社／神奈川新聞社
代表 石坂雅彦／石井抱旦／生駒蘭嵩（相談役）

展覧会
2019年6月3日・月—9日・日
11—18時（初日のみ13時—／最終日のみ—17時）
横浜赤レンガ倉庫 1号館2階
神奈川県横浜市中区新港1-1 231.0001 045.211.1515
入場無料
陳列 有限会社美術表装岡忠 ほか
記録 有限会社美術表装岡忠（静止画）／坂巻裕一（動画）

関連企画
シンポジウム 6月8日・土 15—16時 笠嶋忠幸氏 | 出光美術館学芸課長
レセプション 6月8日・土 17時半—18時半
ワークショップ 毎日 13時—
ギャラリートーク 毎日 14時—

図録
2019年6月3日発行 400部
打ち／撮り 有限会社美術表装岡忠／株式会社東洋額装／有限会社香葉堂／
藤和額装株式会社 ほか
組み 坂巻裕一
刷り 株式会社グラフィック（A4 上質紙90kg）
折り／締め 株式会社ナカノ
綴じ 有限会社中村印刷所 

事務局／問い合わせ 石井抱旦
神奈川県茅ヶ崎市中海岸2-10-13 253.0055 0467.86.2615

題名

寸法 (cm)
使用材
制作年

コメント

氏名

生年
所属
師
住所
連絡先

略歴

引っ掻き回そう!

桐山正寿

毎日新聞学芸部

自らの日常生活を考えてみる。職業は会社員、職種は新聞記者。「書く」ことで収入を得ているはずなのに、書いてはいない。パソコンのキーボードを叩いている

▲ 書の担当となった時に、お目にかかる方々から、美しい文字が綴られた手紙をいただいても、楷書以外は読めない、と怯えた。ところが、支障はほとんどなかった。肉筆の手紙をいただくことは、滅多になかったからだ ▲ 現代は、人間が手を動かして書いた文字は生活から完全に切り離されてしまった。ここに、書の危機も可能性も、潜んでいるように思われる ▲ 「芸術作品を創造しているんだ」と叱声が飛んできそう。しかし書人は作品を売って暮らしているか？ 書を教えて食べているのではないか。街角に掲げられた看板や刻された標識に思わず立ち止まらせてしまうような書を見つけられるか？ 百歩譲って書展会場に身内以外の人、どれだけいるだろう ▲ 「両極の書」が「書って何だろう?」、と思い巡らす契機となつてほしい。書人仲間、そして芸術を必要とする人々の間で。今回展のカタログは「漢字・仮名」と「前衛」が、逆立ちするように編集されている。企画者の強い意欲と機知が感じられる。開催主旨には「身内だけじゃ やる意味ない。広がりもない。驚きもない。全く井の中の蛙じゃないか。さみしい限りだ」とあった。尻馬に乗って付け加えよう。書の楽しさは、まだまだ世の中に知られてはいない。口コミ（インターネットもいいだろう）で直接、周りの友人に伝えようではないか ▲ 喧々諤々、書について語り合おう。現代の書が「低迷の底」（主旨文）にあるのなら、なおさらだ。赤レンガ倉庫という会場は開かれた広場となり得る。進取の気性を秘めた会場なら、少々乱暴な物言いも許されるのかもしれない。「低迷の底」を引っ掻き回そう! 「書く」＝「掻く」と承知している。言葉の原義にも、つながっていくに違いない。

RED

BLUE

各 120×120
画仙紙／ネオカラー／パール粉
2019

表現の欲望は尽きません。



安藤一鬼

1969
奎星会
石井抱旦
東京都葛飾区西亀有
080.6526.3636

2008 奎星展／無鑑査特別賞
2013 Ten ten 2013 横浜赤レンガ倉庫「SHO is it !」に参加
2016 Ten ten 2016 横浜赤レンガ倉庫「55のスタイル」に参加
2017 Ten ten 2017 3331 アーツ千代田「線のゆくえ」に参加
2018 書家による抽象表現展II」／銀座ギャルリー志門 に参加
2019 Ten ten 2018「書の実験室」に参加

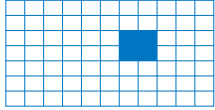




COSMOS (宇宙) — 宇宙の穴をのぞく 石井抱旦

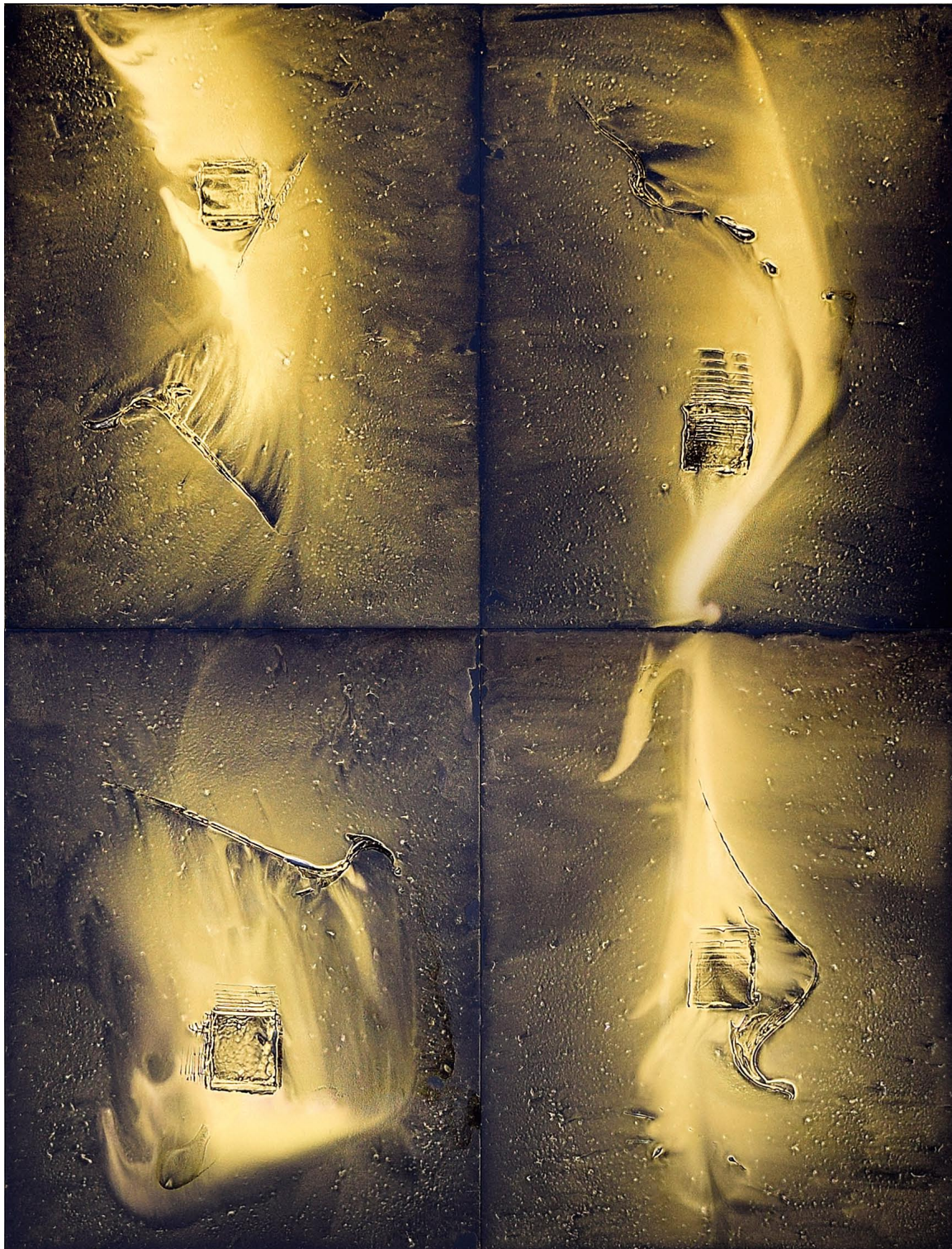
42×32×77片(うち4片)
塩ビ板／岩彩／アクリル絵具／盛り上げ剤
2019

散乱する点 突き抜ける線
そこは億年の光が渦巻いている
無限の淵の 無音の記憶



1947
奎星会／毎日書道展／照心書道会 水越茅村／宇野雪村
神奈川県茅ヶ崎市中海岸2.10.13 253.0055 0467.86.2615

1974～グループ展／東京銀座十字屋ギャラリー他 5回
1990～海外展／ヨーロッパ巡回・アメリカ巡回・北京・ベルリン・ソウル 等
個展／茅ヶ崎市文化会館／銀座ギャラリー志門等 7回
2009 茅ヶ崎の書展／茅ヶ崎市美術館／井上有一・水越茅村・石井抱旦
「神奈川の歴史上の人物100人」の一人「藤間柳庵 生誕・終演の地」
碑文揮毫
2010 市立東海岸小学校校歌「岩谷時子 作詞・弾 厚作 作曲」碑文揮毫
2013～日・米美術交流展／金沢・東京・アメリカ3回／パリ2回／ニューヨーク1回
2014 東アジア文化都市2014 横浜／總持寺
2015 東アジア文化都市2015 光州市国立アジア文化殿堂・韓国／招待出品
2017 第15回NAU21世紀美術連立展／新国立美術館 奨励賞受賞
2018 同上第16回展／新国立美術館 20m²のブースで企画個展





Graffiti of Paints 一中 2019 - 1 -

60×80
銀泥箋／箔／墨／ペンキ
2018

作品を「作りこむ」ということをしています。

草津祐介

1981 都留文科大学特任准教授
師はいません。お世話になっている人はたくさんいます。
東京都葛飾区四つ木4.4.12.405号 124.0011
usk932@hotmail.co.jp

- 2011 草津祐介展 - 沈思黙考 - (Shonandai My Gallery)
- 2012 横浜赤レンガ倉庫40 - The Sho あしたを書く - (横浜赤レンガ倉庫)
BAMA2012招待出品 (韓国ソウル・Haeundae Centum Hotel)
- 2013 横浜赤レンガ倉庫2013 - Sho is it - (横浜赤レンガ倉庫)
草津祐介展 - 文字曼荼羅 - (Shonandai My Gallery)
- 2015 Letter and Ink招待出品 (韓国ソウル・Gallery Philmuk)
東アジア文化都市2015招待出品 (韓国光州市・国立アジア文化殿堂)
- 2016 TEN TEN 2016 IN 横浜赤レンガ倉庫 - 線 - 55のスタイル -
(横浜赤レンガ倉庫)
- 2017 Ten ten 2017 in 3331 - 線のゆくえ - (3331アーツ千代田)
- 2018 第5回済州アートフェア招待出品 (済州特別自治道)





潤 — 2019

180 × 285
画仙紙／ネオカラー／墨
2019

瞬時に現れる点・線・形・色から幽玄の世界が浮かんでくる。
時間と空間のせめぎあいの中で、作品として完結させたいと願う。

佐伯孝子

1954
奎星会／毎日書道展／飛雲会／煌彩会
加藤博暘
兵庫県神戸市中央区北野町1.2.7.508 650.0002
078.222.0074

2000 毎日関西代表作家ロサンゼルス展出品・訪米
2003 奎星展 上田桑鳩記念賞受賞
2004・2009 煌彩会書展開催（神戸）
2006 毎日書道展 会員賞受賞
2009 第2回日中女流書道家代表作品展出品（北京）
2009・11・13・15 現代の書新春展・セントラル100人展出品
2009・11・14・17・19 現代女流100人展出品（東京）
2010 奎星50人の書展出品（東京・上野の森美術館）
2013 TOKYO一書2013出品（東京都美術館）
2014 煌彩会選抜前衛書展開催（兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー）



極

182.4×91.4×3点
ポリカーボネート／アクリル
2019

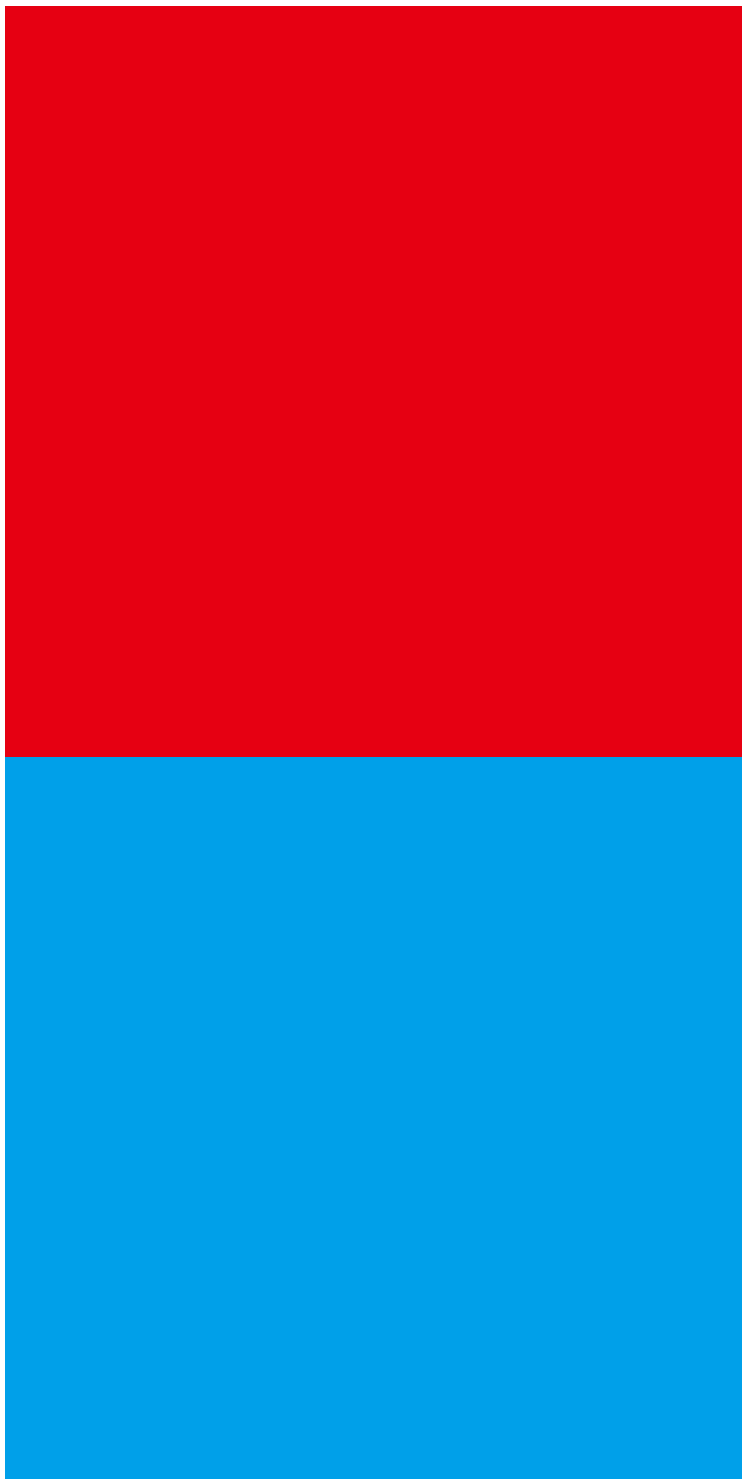
極（きわ）と極の際（きわ）



坂巻 裕一

1978
奎星会
田村空谷
プロフィール写真撮影 岡吉之

2000 田村空谷ホームページ「書の実しさについて」（企画）
美術大学で書をするということについで／多摩美術大学（企画）
2008～奎星展（2009 A部特選他）、毎日書道展（2014 前衛書部佳作）
2009 審美社書展／横浜市民ギャラリー・神奈川
2012～おおふなと夢商店街夢書展／岩手・新潟・兵庫・東京（企画）
2013 書と身体、書と身体2／森下スタジオ・東京（舞台美術）
2015 荒川区教育委員会褒賞
2018 ART SHODO TOKYO／三鷹市文化芸術センター・東京（ブース出展）
書家による抽象表現展II／ギャラリー志門・東京
OSAKA SHODO SHOW／オーガニックスペース・大阪
2019 「書と非書」際（きわ）展／JARFO京・文博・京都





榛葉 壽鶴

1935

奎星会／毎日書道会

宇野雪村／櫻井琴風

静岡県島田市岸町 863.10 427.0005

0547.36.7601

090.7955.3068

毎日書道展 会員賞受賞

奎星展 宇野雪村賞／天野翠琴賞受賞

静岡県芸術祭展 委嘱作家

現代女流書100人展隔年出品

中国日本現代女流書展出品

フランス日本現代書トゥール展出品

現代書しずおか展出品

Ten ten 2014より連続出品

慟哭

84×240×2枚

トレッシングペーパー／ローラー／ネオカラー／墨液

2019

傷ましい童女の魂に捧げる悲痛な思い。慟哭



気韻生動

168.2×59.4
墨／水彩紙
2019

そろそろ書家としての自分と向き合う時だと思っています。
しばらくは、気韻が生動しない作品を目標に書いてみます。



杉山 勇人

1979
神奈川県

群馬県高崎市生まれ。
鎌倉女子大学短期大学部准教授。
専門は書写書道教育、国語国字問題。
前衛的な作品のほか、篆刻も少々。
Ten tenのほか、個展・グループ展多数。





想い人

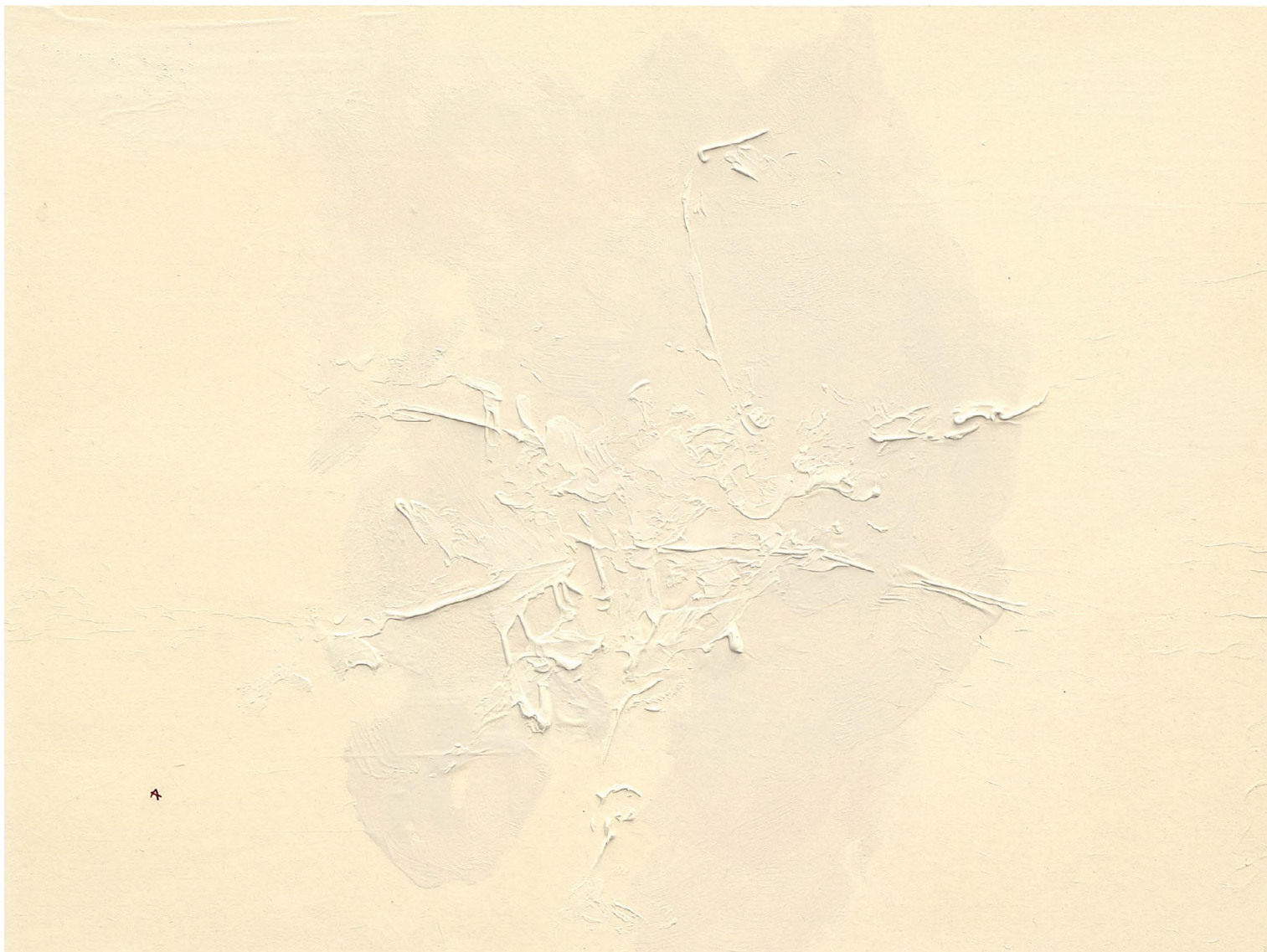
60×240（部分）
画仙紙／アクリル 絵具／モデリングペースト
2019

たとえ振り向いてくれなくても

高橋彰子

1973
奎星会
増田茅山／天野碧郎
神奈川県
akiko26ogawa@gmail.com

2000 奎星新人100人展／上野の森美術館
2012 横浜赤レンガ倉庫40 - 明日の書
2013 横浜赤レンガ倉庫2013 - Sho is it!
2014 Ten-ten2014 IN SAPPORO 書 imagined!／
コンチネンタルギャラリー（札幌）
2015 Ten-ten2015 in 鎌倉 - 文字の向こうへ -／鎌倉芸術館
2016 Ten-ten2016 IN 横浜赤レンガ倉庫
2017 書家による抽象表現展／ギャラリー志門（銀座）
Ten-ten2017 in 3331 アーツ千代田
2018 Ten-ten2018 in 3331 アーツ千代田





風を捉えて

119×98.5
墨／台湾紙
2019

墨線と滲みをつかい試行錯誤しながら新しいかたちを追求しています。

竹澤順子

1961 奎星会 山本大廣 福井県福井市大東2.5.21 918.8202
0776.54.8350 takezawa-kj@nifty.com

1978 えとの現代書展 現在まで毎回出品
1983 第32回奎星展／東京都美術館 以後現在まで毎回出品
1990 個展(NTTホールギャラリー・福井)
1999 第51回毎日書道展・52回・56回・57回・60回展で秀作賞5回受賞し
会員となる
2007 「'07奎星俊英作家展」／上野の森美術館
2009 竹澤順子・吉田直樹二人展／ハーモニーホール福井・福井
2012 奎星 書の流れ展「創立から今への歩みII」／東京セントラル美術館・東京
2014 第63回奎星展 上田桑鳩記念賞受賞／東京都美術館
2015 東アジア文化都市2015「日中韓書道交流展」招待出品／
国立アジア文化殿堂・韓国・光州市
2016 Ten・ten 2016 in横浜赤レンガ倉庫、
2017 TEN ten 2017 in 3331 Arts Chiyoda、2018も出品





竹下青蘭

奎星会／毎日書道会 上田桑鳩／宇野雪村
北海道札幌市中央区南1条西8.20.1.408 060.0061
090.5980.5476

1988 個展「すみいろコスモス」丸井今井クレオギャラリー・札幌
以後 札幌で多数
1996 毎日書道展 前衛書部会員賞 東京都美術館
1999～現代女流書百人展 高島屋ほか東京 以後多数
2001 個展 養清堂画廊 東京
2003 「さっぽろの美術・19+1の試み展」選抜出品 市民ギャラリー
2004 日中女流書道家代表作品展 東京 北京
2005 第50回記念CWAJ展 アメリカンクラブ 東京
出品作「虹」米国議会図書館（ワシントン）に永久収蔵
2012～「横浜赤レンガ倉庫・あしたの書展」出品 以後多数
2014 札幌国際芸術祭連携「Tenten 2014 In SAPPORO」
コンチネンタルギャラリー 以後連続出品

面と線・混沌 I, 混沌 II

右から 各140×70
中国紙／油煙墨／ボンド
2019

書線の美に惹かれつつ、心に潜む感情が私を揺さぶる。
更なる自覚と変化を求めよと。
そんな声を夢うつつに聴いている。





出合い

90×90.5
墨／コーヒー／和紙
2019

思わぬ事・物が偶然出合った時、驚きとひとつの奇跡が起こった

竹原 慎一

1954
奎星会
福井県勝山市片瀬32.12 911.0811
0779.87.1020

2010・2011・2012・2014・2017 玄恭会書道展に5回出品

2017 第64回福井奎星展 奨励賞
第67回福井県書道展 秀作賞
第69回毎日書道展 初入選
第66回奎星展 特選
第68回福井県総合美術展 書作家協会奨励賞
第18回宇野雪村賞全国書道展 特選





いとおかし II

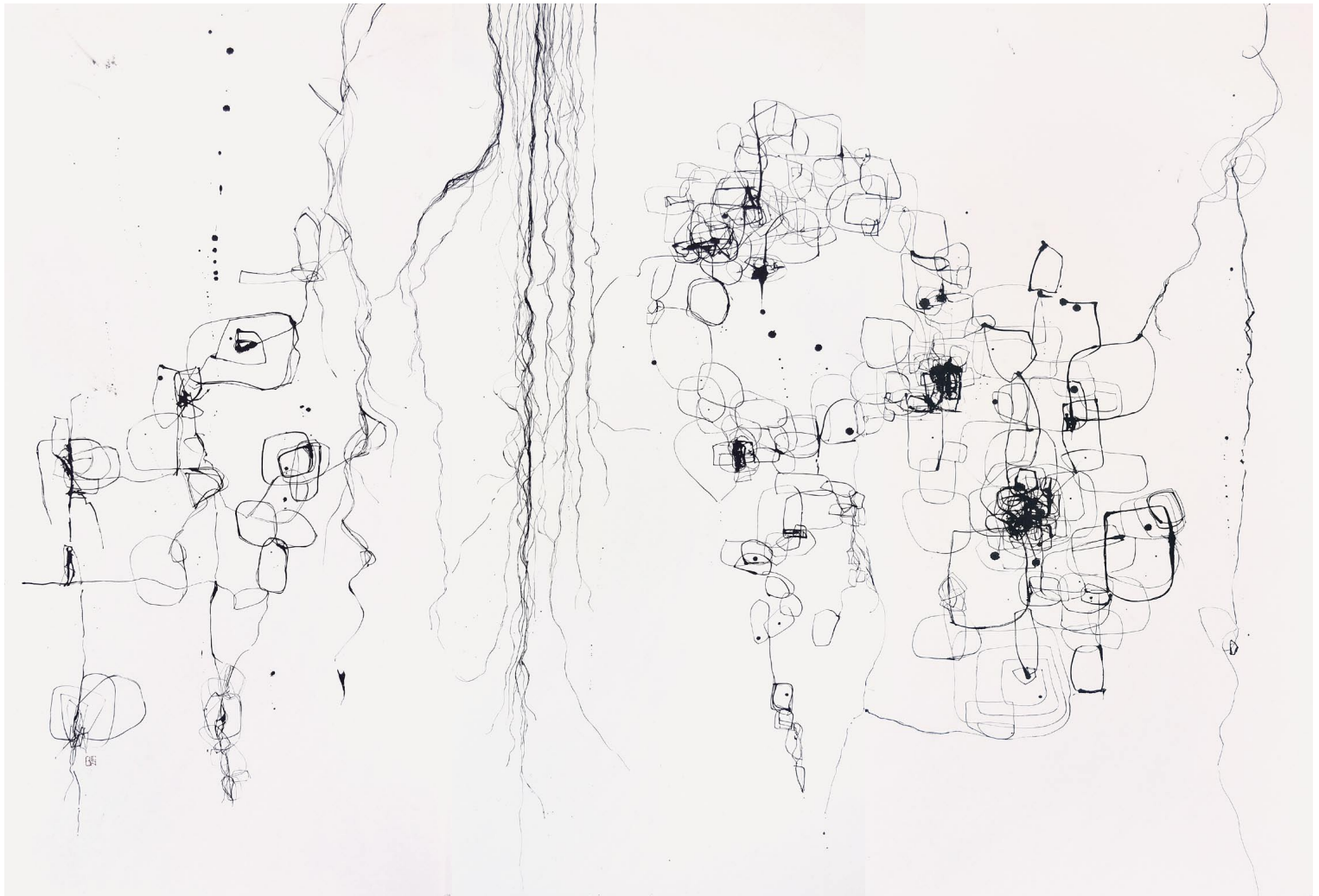
180×270
画仙紙／墨／糸
2019

繋がり、紡ぐ、結び、縁、絆。。
糸と人を重ねてみて。
その先に続くものは……。

竹村美園

1967
奎星会／毎日書道会
櫻井琴風／榛葉壽鶴
静岡県藤枝市内瀬戸 16.53 426.0076
054.643.6483／090.7301.0875

1999 第51回「毎日書道展」(秀作賞)
2000 第52回「毎日書道展」(毎日賞)
2004 第53回「奎星展」(奎星賞)
第43回「静岡県芸術祭」(奨励賞)
2010 第62回「毎日書道展」(秀作賞)
2011 第60回「奎星展」(無鑑査特別賞)
第63回「毎日書道展」(秀作賞)
2012 奎星会 書の流れ展／セントラル銀座
2013 横浜 赤レンガ倉庫2013ーSho is it!ー／赤レンガ倉庫
2018 静岡県芸術祭展 委嘱作家





だれもしらないつづきのはなし i

120×90
中国紙／墨
2019

文字が文字を超えてゆき、物語を紡ぎ出す。
見る人の心のありようで、無数の文脈が生まれる。

谷川ゆかり

1963
毎日書道会／奎星会／飛雲会／兵庫県書作家協会
江草幽研
兵庫県姫路市高岡新町5.5 長田方 670.0062
090.8386.3012

1993 個展／南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2003 個展／南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2007 兵庫県芸術文化協会創立40周年記念新進作家展／兵庫県民会館・神戸
2008～2018 壘土舎展／大阪産業創造館・大阪
2013 神戸ビエンナーレ2013／メリケンパーク・神戸
2013～2018 Ten-ten／横浜・札幌・鎌倉・東京
2018 書家による抽象表現展／ギャラリー志門・銀座
2018 個展／ふるもと珈琲店・神戸
2019 画・陶・書コラボ展／南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2019 「書と非書」際展／京都文化博物館別館・京都





中西浩暘

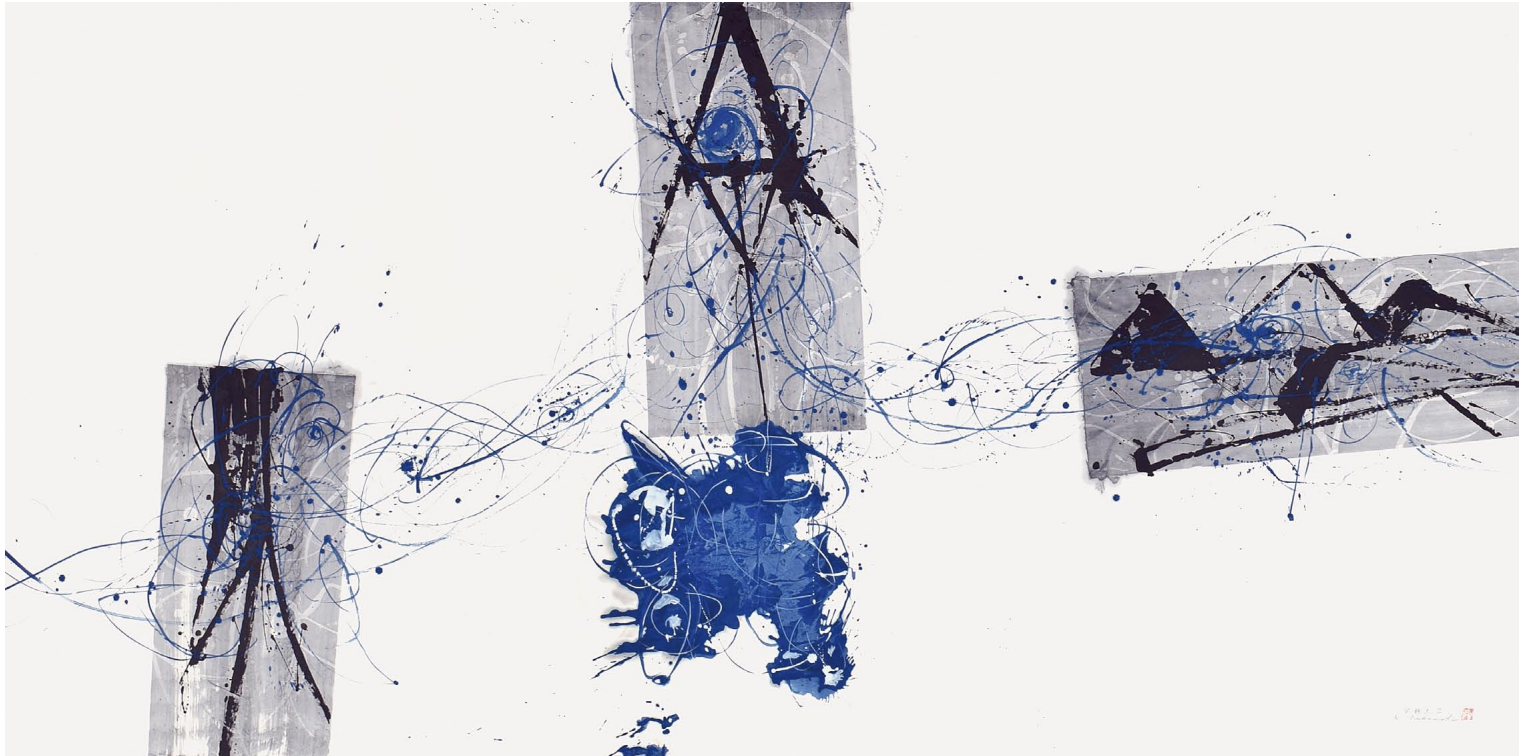
分餘光 II

120×240
中国紙／顔彩／ネオカラー／墨／膠
2019

書く営為は、常に余白を意識した身体性表現であり、
そこに生起される点と線は互いに呼応する美的交響である。
それらは、自由で変化と統一の止揚へのあくなき挑戦である。

1948
奎星会／毎日書道会／兵庫県書作家協会／飛雲会／玄象社
上松杜暘
兵庫県神戸市長田区腕塚町6.1.31.1303 653.0036
078.642.5535 ken106@hi-net.zaq.ne.jp

1968 上松杜暘に師事、前衛書に取り組む
1970～墨象7人展、書4人展、パンドラの箱アンデパンダン展（神戸市内）
1997 奎星展 上田桑鳩記念賞受賞
1998 個展（神戸ダイヤモンドギャラリー）
2000 毎日関西代表作家ロサンゼルス展出品・訪米
2008 現代日本の書代表作家台北展出品・訪台
2008～19 TEN・ten出品（東京・銀座洋協ホール、横浜、札幌、鎌倉等）
2008 比田井天来門流展出品（長野県・天来記念館）
2014 現代日本の書代表作家バリ展出品・訪仏
2018 国際書法交流シンガポール大展出品





明日（マニャーナ）

39×52×7
厚手和画用紙／墨
2018～2019

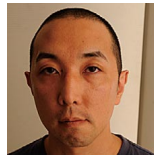
書いて積み重ねたそれぞれの一枚にこめられた思念。
一つずつ記憶の風景は深く静かに時を刻む。
白と黒の線と面の世界に一瞬を託して

東素子

1936
公益財団法人 書道芸術院
中島邑水
千葉県市川市
3motost-28@ezweb.ne.jp

1978～86 今日の日本書展9回／フランス・イタリア他
1996～書道芸術院記念海外展／カナダ・シンガポール・アイルランド
2007 中島邑水生誕100年記念展／成田書道美術館・千葉
2008 ソウル書藝ビエンナーレ展／韓国 ソウル
2011～18 横浜赤レンガ倉庫20一次元を超えて一展／横浜（以後継続）
2013 東京湾遊覧船名・みずは・揮毫（船主市川在住）
2014 平成の遣欧使節作家ローマ芸術祭タイル焼付作品／イタリア ローマ
2018 日光東照宮奉納美術展／日光
2019 天来の会書展／東京
個展 1983～ 熊谷守一美術館、ちばぎんギャラリー、市川ゆかりの作家展他





Caution in a train

This window cannot be opened

10 × 14
Ink on paper
2019

日野公彦

1975
東京都町田市鶴川 2.11.4.401 195.0061
sx70alm2@gmail.com

1994 二松学舎大学入学。
井上有一のコンテ書「コンテもをわり」に衝撃を受け、書始める
1996 ウナクトウキョウにて井上有一の作品整理に1年間携わる
1996 個展「メモ」
1997 個展「居留守で住人不在展」
2004～現在 天作会・井上有一に捧ぐ書の解放展-に参加
2011～現在 作品ブログ「デイリー書道」に参加
2017 書の未来展(青山 伊藤忠アートスクエア)に出品
2017 作品集「ミライシヨドウ」に掲載
2018 ART SHODO TOKYO に出品

二の窓はあけられません
This window
cannot be opened



蘭亭十三跋 元・趙孟頫

20×20
紙／墨
2019

書の世界に燦然と輝く「古典」の完成された美に憧れを抱き
それを自らの欲で壊す快感の中にまだいる

平蔵

1983
文字区民
東京都足立区東和5.11.14.202 120.0003
hirakurakazunori@gmail.com

個展

2008 「These three words- 追憶・幻想・混沌 -」(東京・銀座)

2009 「溯源」(NY・ブルックリン)

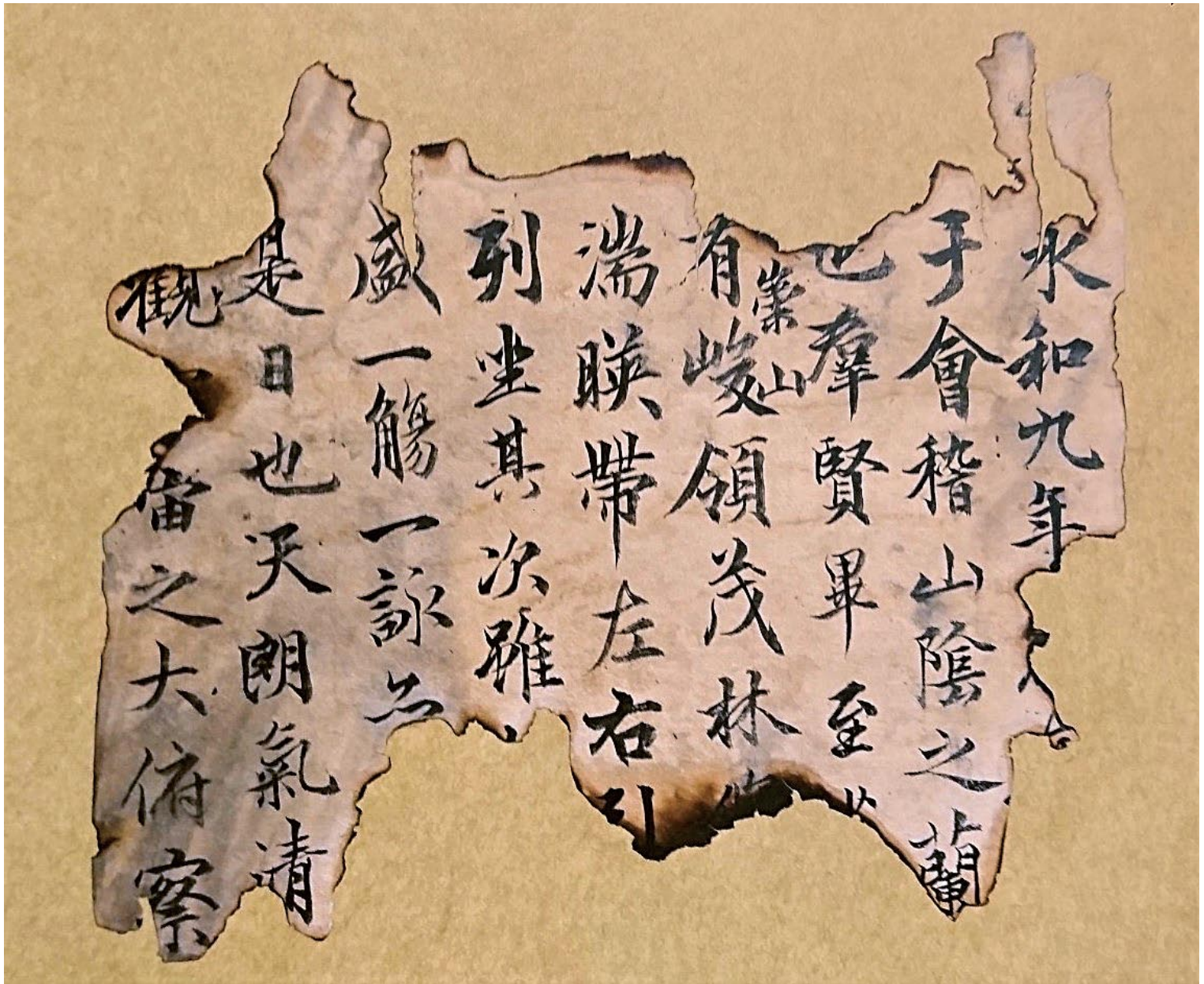
2016 「鑑賞者のいない展覧会」(東京・三鷹)

グループ展

2003～書の交差展(原宿・池袋・目黒)(04・05・11)

2007～文字区(池袋)(09)

2012～Ten・ten(横浜赤レンガ・3331アーツ千代田)(12・13・16・17・18)



Graphical Sho_2019_a+

90×247.5(部分)
紙／墨／缶バッジ
2019

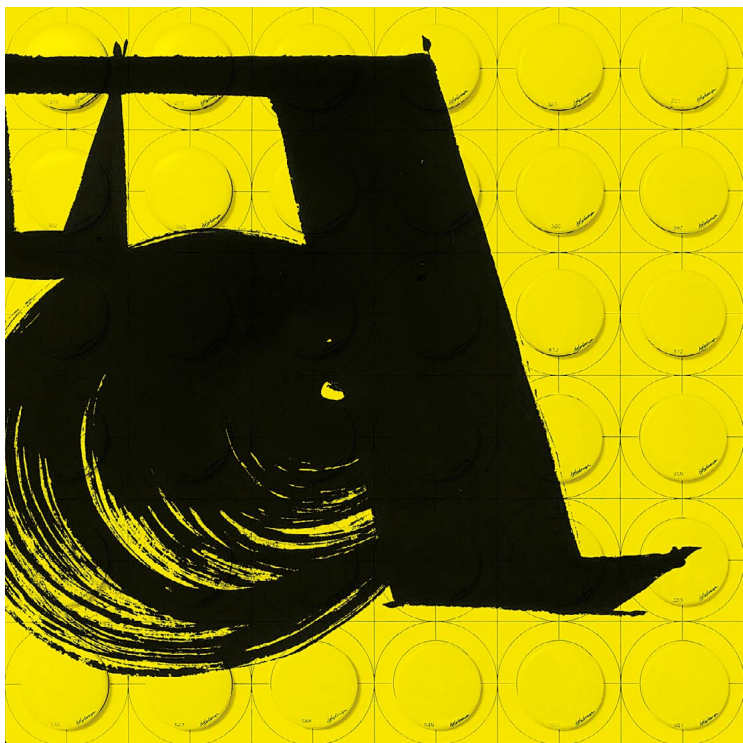
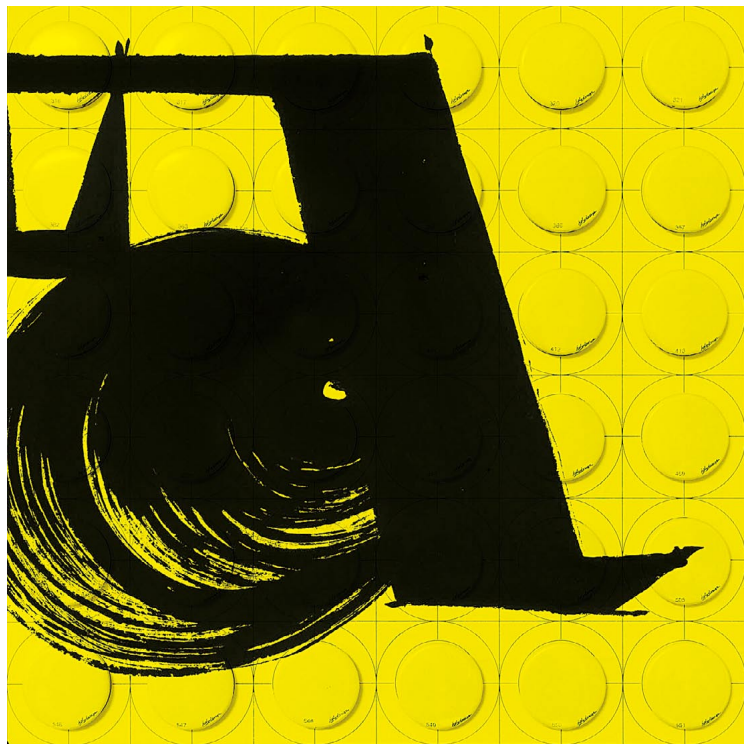
グラフィカル書にデザインとドローイングをプラスして BADGE ART で表現した。



堀内肇

1962
奎星会
田村空谷
plus.g@gol.com
plus-g.tokyo

- 2000 個展「3.14 YO-YO EXHIBITION」(東京・青山)
- 2003 個展「3.14 BUTTON展」(東京・渋谷)
- 2004 「わたしにとっての日本展-根」(東京・銀座)
「日韓現代美術交流2004」展(東京・大崎)
- 2005 EXPO Romanesque! (ASIAN) (Paris)
- 2009 審美社書展(神奈川・横浜)／毎日書道展 前衛部 佳作入賞
- 2011 個展「グラフィカル書_26のカタチ」(東京・青山)
- 2013 「Ten-ten横浜赤レンガ倉庫2013-Sho is it!-」(神奈川・横浜)
- 2017 個展「en.」～グラフィカル書-CROSSする領域～(東京・新宿)
- 2018 「Ten-ten 2018 in 3331 ARTS CYD_ 書の実験室」(東京・末広町)



BRAILLE CODE - 令和の書〔先触れ〕

『点字毎日 2019.4.7号』（毎日新聞社）

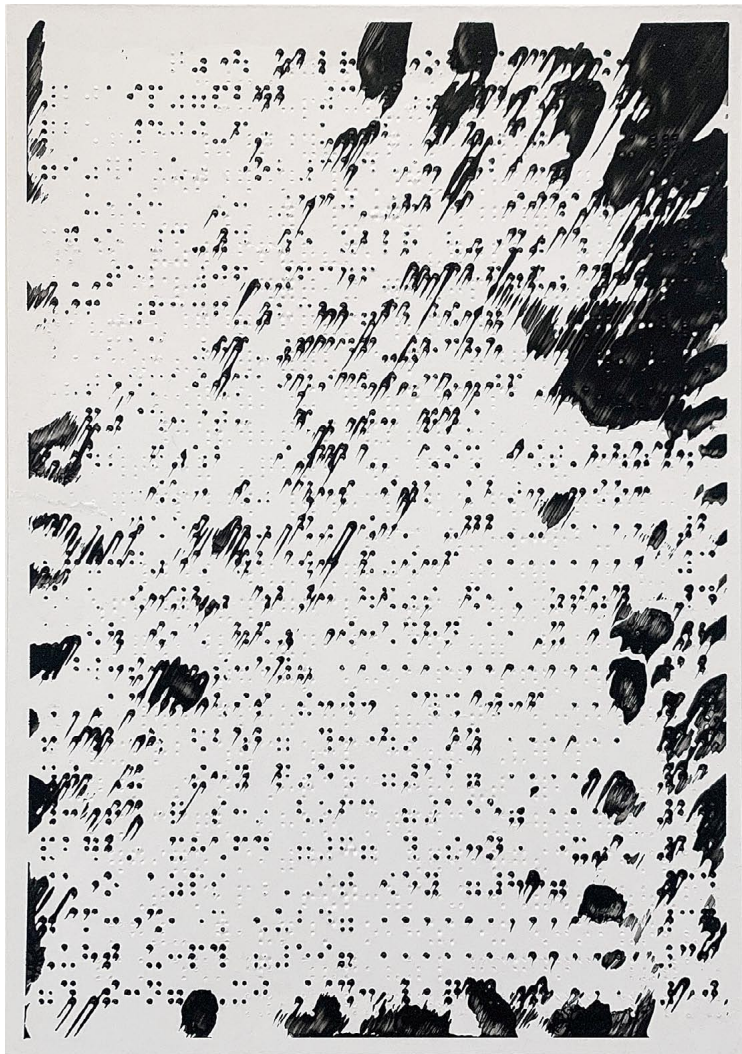
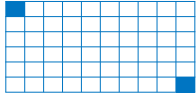
165×200（A4×60片 部分）

紙／アクリル／煤

2019

新元号「令和」が発表された。

本作は、新元号発表掲載の点字新聞による。



宮村 弦

1980 奎星会 榛葉壽鶴

gen-m.jp

2010 個展「宮村弦 イメージラング-未解文字の蠱惑-」／CCC 静岡

2012 個展「IMAGE LANGUAGE: linear code」／ICN gallery（ロンドン）

アートに見る「ミーム」

- 書・版画・日本画に見る伝統、技術、現代性の探求 -／渋谷ヒカリエ

2013 第2回 都美セレクトシヨングループ展「書の予兆-墨象の現時代-」／

東京都美術館ギャラリーB

2014 個展「宮村弦→'14」／エマギャラリー（静岡）

2017 書の未来展／伊藤忠青山アートスクエア

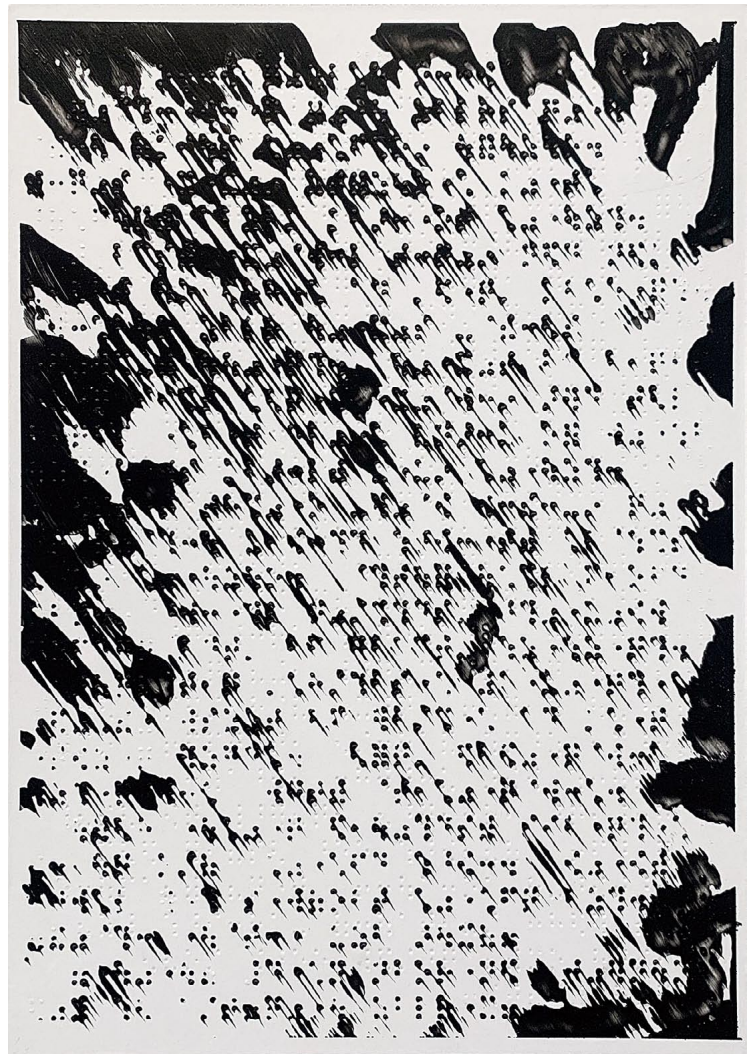
現代アート書道の世界／新宿高島屋美術画廊

「TOKYO 書2017 公募展の今」／東京都美術館

第71回企画展「宮村弦-モールス・コード-新しい言葉の{カタチ}」／

島田市博物館

2019 個展「Morse code / Braille code」／渋谷ヒカリエ





宇宙

91×360
紙
2019

広大であり強力なこの宇宙の存在をテーマに常々書いてみたいと思っていた。
まだまだ弱いところは反省点ではあるが、
現時点から未来に向かって銀河の世界を突進していく
自分の姿を想像していただくと面白い物語になる。

森紅汀

1942
香川墨華書道会（硯友会）
小森秀雲
香川県
087.834.7723

香川美術展、奎星展、毎日書道展、四国書道展等出品
1980・1981・1982 奎星賞、奎星賞、毎日新聞社賞
1988 奎星会 高橋竹村賞
1991 毎日書道展 会員昇格
1996 奎星会 宇野雪村賞
2001 四国書道展 審査員
2002 奎星会 同人特別賞
2005・2006・2008・2018 香川県展 教育委員会賞 入賞
2013 香川県展 奨励賞 入賞
2018 奎星会 同人賞・書壇受賞に輝く作家展出品





風花玉響 雪消月

147×97×2点
墨／水性ボンド／筆／テトロンボンジ
2019

消えるものの中から、微かな光や音がまた生まれ、立ち上がって来る。
そんな北の大地のゆったりとした時の流れと生命力。

八重柏冬雷

1954 毎日書道会／奎星会 長沼透石
北海道河西郡芽室町東6条7丁目1.83 082.0016
torai-y.com

2002 帯広市文化奨励賞受賞
2007 書壇受賞に耀く作家展／東京セントラル美術館・東京
2009 奎星50人の書／上野の森美術館・東京
2012 Ten ten明日の書／横浜赤レンガ倉庫・横浜 以後毎年出品
2013 第35回「日本美術の輸出」展・ニューヨーク
2015 現代の書 新春展／セントラルミュージアム銀座・東京
以後出品 2017・2019
2017 北海道立帯広美術館に「花鳥風月～寂韻の響き～」収蔵
2017 第9回八重柏冬雷Sho art 獨り展／勝毎サロン・帯広市
2018 北海道帯広百年記念館に「玉響～丁酉 其の壺～」収蔵
2019 小学校出前授業「ジャンボ書道」が13年目を終え、
延べ87校、4,300名を超える。





葛藤

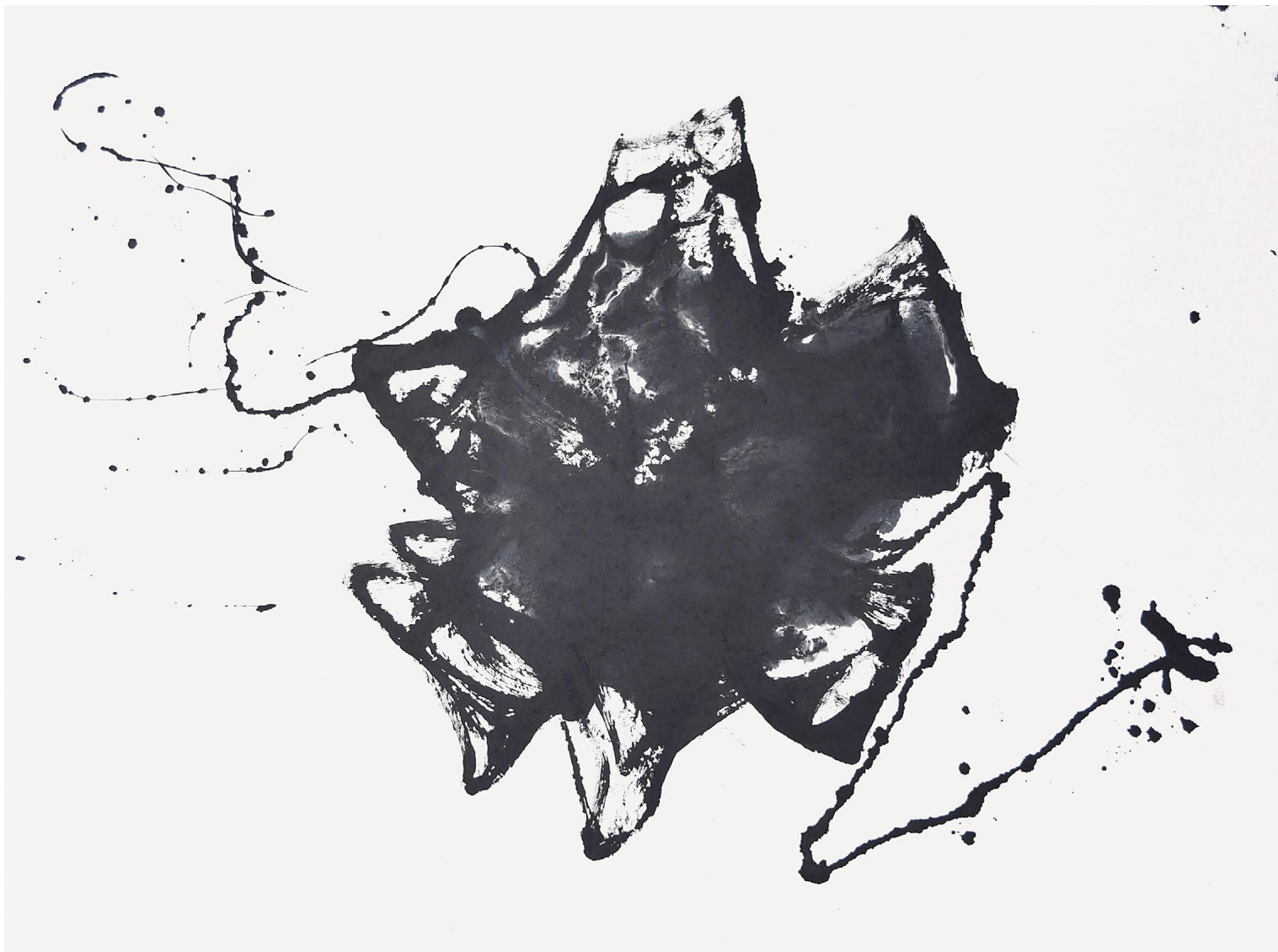
90×121
墨／和紙
2019

（理想）×（現実）…… 葛藤！

山下恭代

1966
奎星会
福井県あわら市北潟 59.16.2 910.4272
090.8703.5940

- 2010 玄恭会を主宰し
金津創作の森、杉田鶴山邸宅跡などで2017まで6回のグループ展を開催
- 2012 第61回奎星展 奎星賞
- 2015 第67回毎日書道展 秀作
- 2017 第69回毎日書道展 秀作
第18回宇野雪村全国書道展 奎星賞
- 2018 第70回毎日書道展 毎日賞
第19回宇野雪村賞全国書道展 町議会議長賞





タイムマシン

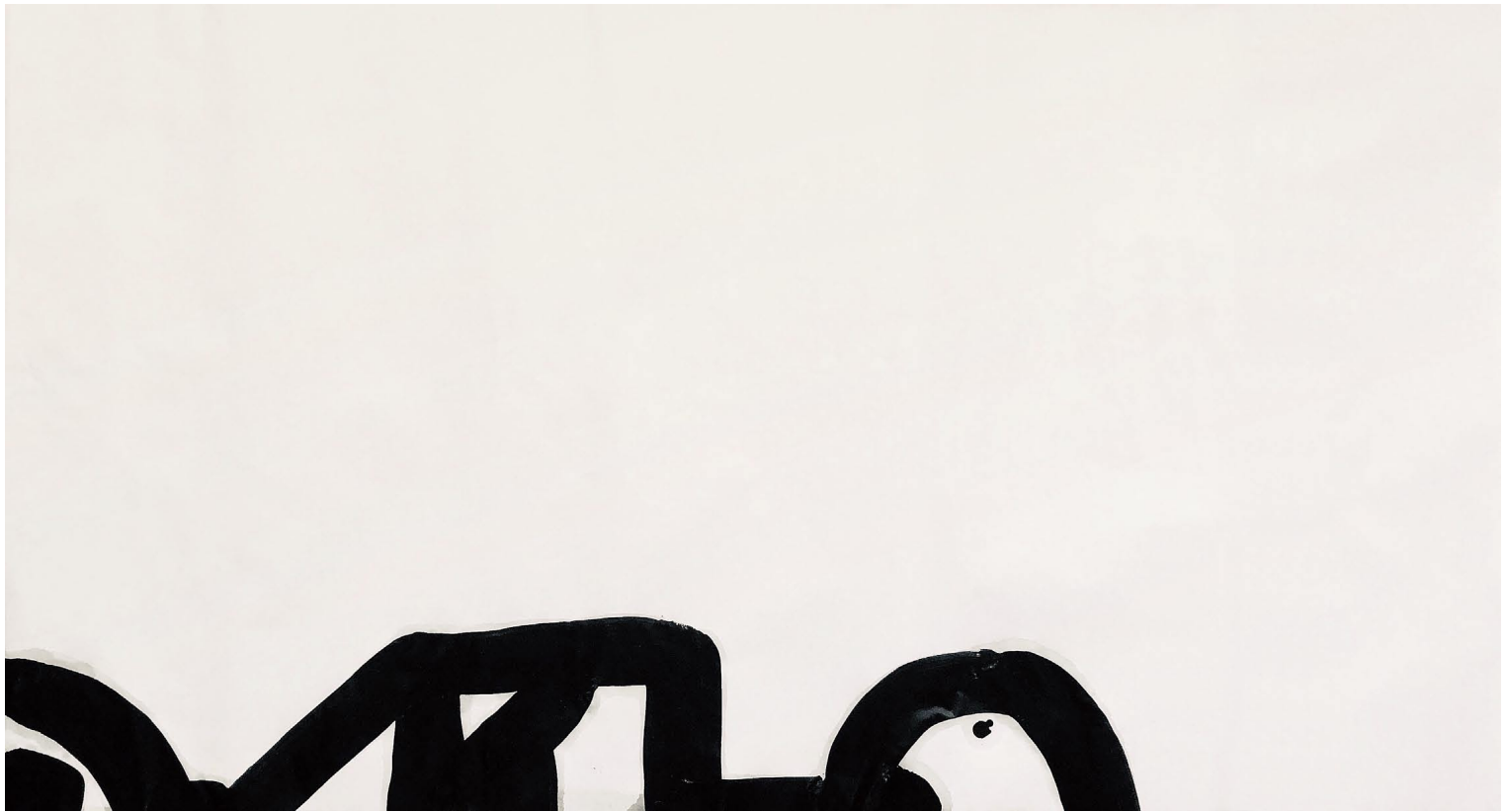
70×125
紙／ボンド墨 軸装
2019

このタイムマシンは、僕と同時代を生きるタイムマシン。
そして、それを作った僕がいなくなっても、このタイムマシンは残り続けるのだ。

山本尚志

1969 Yumiko Chiba Associates

1991 ウナツクトウキョウにて井上有一カタログレゾネのための作品整理に携わる ▲
2004～現在 天作会 - 井上有一に捧ぐ書の解放展 - ▲ 2006 世界書芸祝祭／ソウル ▲ 2008 ソウル書芸ビエンナーレ／ソウル ▲ 2010 一人快芸術／広島市現代美術館 ▲ 2013 日・中現代精鋭書画作家展「書と非書の際(きわ)」／京都文化博物館 ▲ 2014 個展「タワー」／東京・下北アートスペース、京都・アートフォーラム JARFO ▲ 2015 個展「マシーン」／バリ・ギャラリーメタノイア、東京・ウナツクサロン ▲ 2016 個展「flying saucer」／Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku・東京 ▲ 2017 二人展「poison and small huts」／同前 出展、キュレーション。「書の未来展」／伊藤忠青山アートスクエア・東京 出展、キュレーション。「現代アート書道の世界」／新宿高島屋美術画廊・東京 出展、キュレーション。個展「Speech balloon」／ギャラリー NOW・富山。個展「バッジとタオルと段ボール」／Bギャラリー・東京。個展「ドアと光と音とガラスと水」／ギャラリーフィールアートゼロ・名古屋 ▲ 2018 個展「トリプルタワー」／寺田倉庫 TMMT・東京。「ART SHODO TOKYO」／三鷹市芸術文化センター・東京 出展、キュレーション



©Hisashi Yamamoto, courtesy of Yumiko Chiba Associates